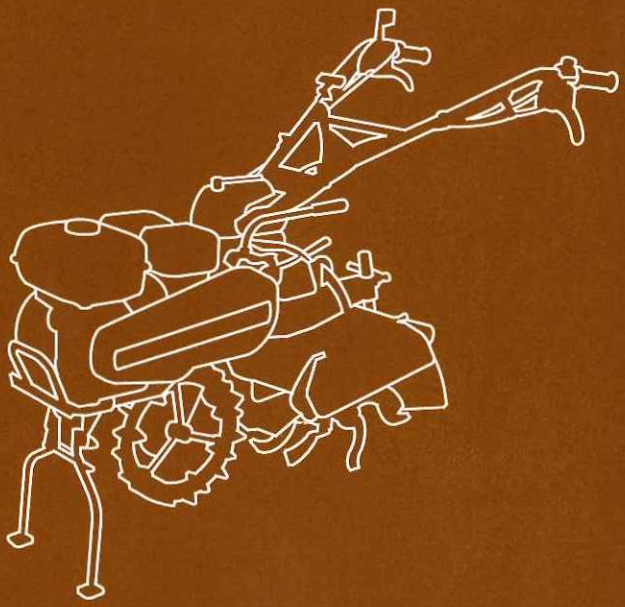
HONDA
汎用製品

耕うん機

FR415・FR615

取扱説明書



eSPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道でのトレーラ走行はできません。
(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)
●夜間作業はできません。
(本機は作業灯が装備されていません。)

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社) 日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

取扱説明書について

この取扱説明書は
・作業をするときは、必ず携帯してください。
・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　次

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう …… 4
安全ラベル …… 9
サービスと保証について …… 11
各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 12
エンジン スイッチ …… 14
エンジン回転調整レバー …… 14
始動グリップ …… 15
チョーク レバー …… 15
燃料コック レバー …… 16
前進、後進切換レバー …… 16
ロータリ切換レバー …… 16
主クラッチ レバー／クラッチ固定レバー …… 17
ロータリ クラッチ レバー …… 18
変速レバー …… 18
ハンドル高さ調整レバー …… 19
ハンドル固定レバー …… 20
リモコン スタンド ノブ〔KEタイプ〕 …… 21
ヒッチ ボックス(作業機取付け部) …… 22
尾ソリ …… 22
PTO軸(動力取出し軸) …… 23
伝動ケース …… 23
ロータリ カバー、サイド カバー …… 24
フロント カバー、泥よけ …… 24
スタンドの立てかた〔Rタイプを除く〕／スタンドの収納 …… 25
作業前に点検、調整しましょう …… 27
作業前の点検 …… 27
ガソリンの点検 …… 28
エンジン オイルの点検 …… 30
エア クリーナ(空気清浄器)の点検 …… 31
タイヤ空気圧の点検〔Rタイプのみ〕 …… 31
ロータリ爪の点検 …… 32
ロータリ ヒッチの点検 …… 32
ハンドルの調整 …… 33
駆動車輪取付けピンの点検 …… 36
駆動車輪の取外し、取付け …… 36

伝動ケースの入れ換え…… 37
ロータリの取外し、取付け …… 39
ロータリ爪の取外し、取付け …… 42
耕うん軸の取外し、取付け …… 43
逆転時の耕うん軸の取付け…… 43
ロータリ爪の取付け方向…… 44
エンジンのかけかた…… 46
運転操作のしかた…… 51
ロータリ…… 51
前進、後進 …… 53
運転…… 55
●主クラッチ レバー …… 55
●クラッチ固定レバー…… 56
●変速レバー…… 57
●エンジン回転調整レバー…… 58
●ロータリ クラッチ レバー …… 58
エンジンのとめかた…… 59
定期手入れを行いましょう…… 61
やさしい点検・整備 …… 62
エンジン オイルの交換 …… 62
変速機オイルの点検…… 64
エア クリーナ(空気清浄器)の清掃 …… 65
点火プラグの点検、調整、交換…… 66
燃料ろ過カップの清掃…… 67
主クラッチ ケーブルの点検、調整 …… 68
エンジン回転調整ケーブルの点検、調整 …… 69
変速レバー ケーブルの点検、調整 …… 70
ロータリ クラッチ ケーブルの点検、調整…… 71
ハンドル高さ調整レバー ケーブルの点検、調整 …… 72
リモコン スタンド ノブ ケーブルの点検、調整〔KEタイプ〕 …… 73
駆動ベルトの点検、調整 …… 75
ロータリ各部のゆるみの点検…… 78
ロータリ各部の給油…… 78
長期間使用しない時の手入れ…… 79
故障のときは…… 80
主要諸元…… 81

警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
  - ・裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や、本機、使用器具の損傷が起こる原因になります。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておいてください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
  - ・点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
  - ・本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。
  - ・作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
  - ・作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。

警告

- 作業内容に適した作業機はお買いあげいただいた販売店に、ご相談ください。
- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。
  適性な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故の原因となることがあります。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジン スイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - 急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故がおきやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、路面の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - 傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - 傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してハンドル操作で行ってください。
  - 傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - 傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

警告

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げて、行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、廻りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定してください。
- 爪(タイン)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると大ケガをするおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取り除いてください。
  - ・作業中異物に当たった時はすぐにエンジンを止め、点火プラグ キャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

警告

- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取り、よく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。

●作業が終わったら

- 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
- 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
- エンジン上部に物をのせるのはやめてください。
- 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
- ボディ カバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引きおこすおそれがあります。

警告

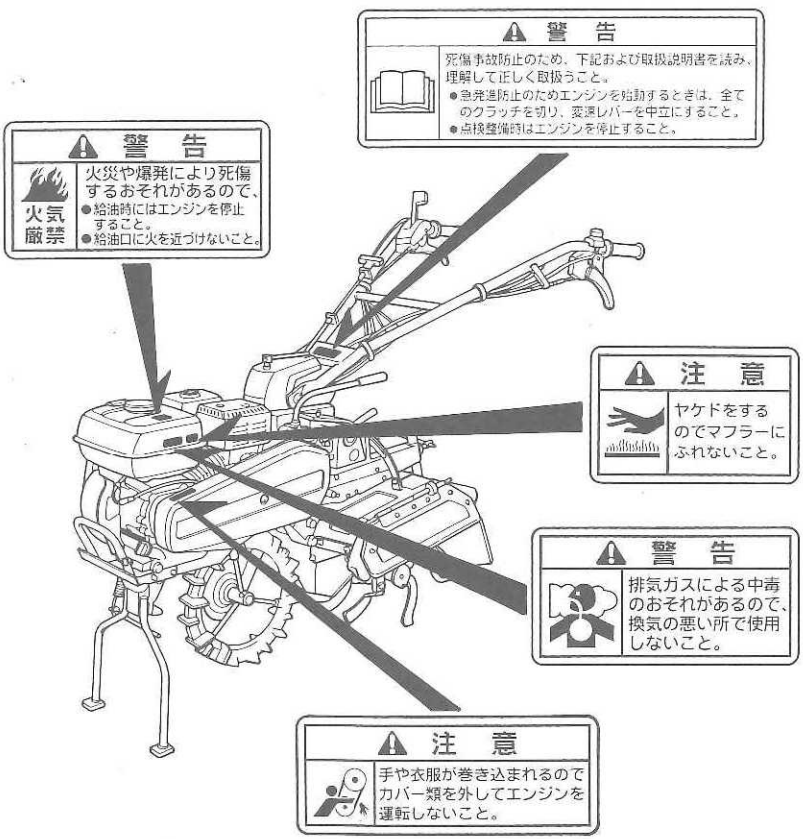
●積み降ろしおよび運搬時

● 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。

・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かない様にしてください。
・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの4倍以上の長さ)
・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
・ロータリ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
・積み込みは、前進で、積み降ろしは後進で行ってください。
・アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチ レバーを切ったりしないでください。
・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れ、主クラッチを“入”の状態にしてください。
・燃料コックは“閉”にして運搬してください。

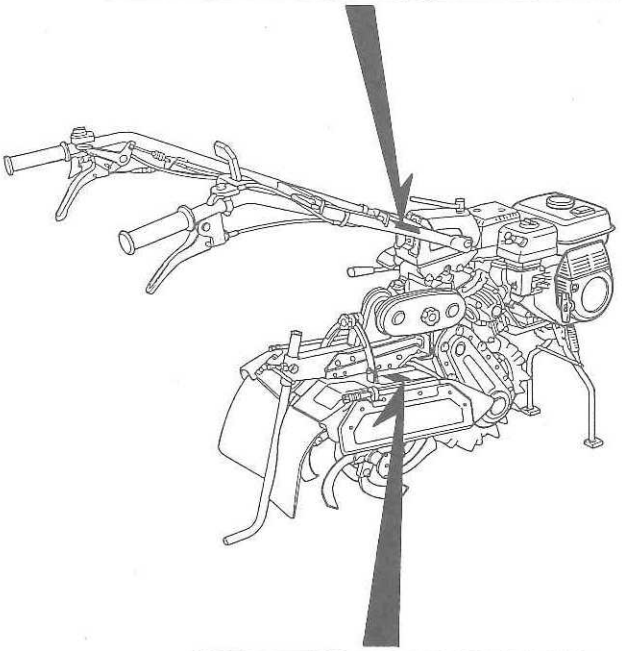
●安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに張り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



⚠ 警　告

- 回転中のPTO軸にふれるとケガをすることがあるので、近づかないこと。
- PTO軸を使用しない時は必ずカバーを付けること。



⚠ 危　険



回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

サービスと保証について

・お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申しつけください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

《銘板》



※フレーム号機および銘板の表示位置は13頁をご覧ください。
(左の銘板はFR415-KEタイプの物です)

本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

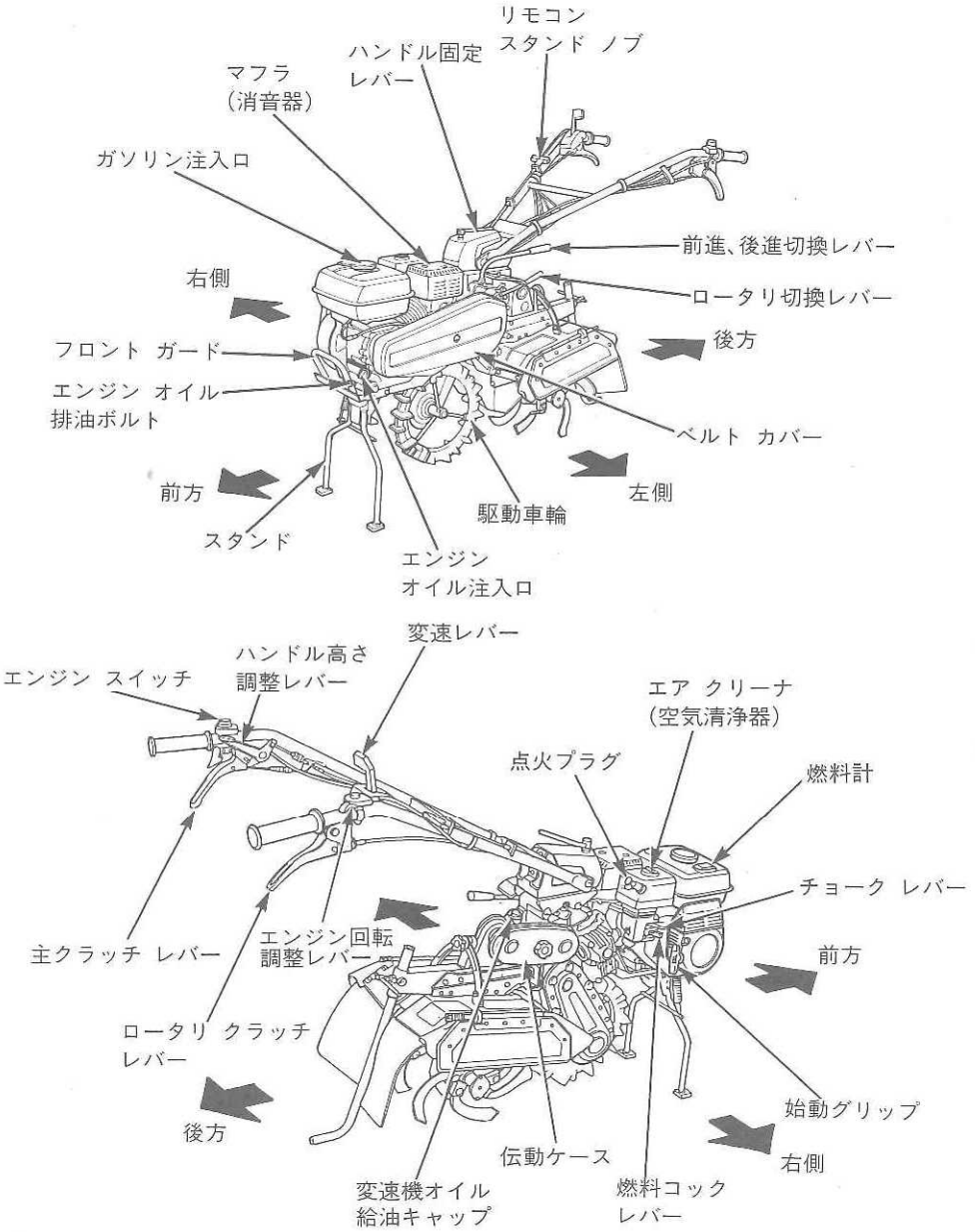
認定番号

安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

安全鑑定型式名	安全鑑定適合番号
ホンダFR415	16095
ホンダFR615	16096

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

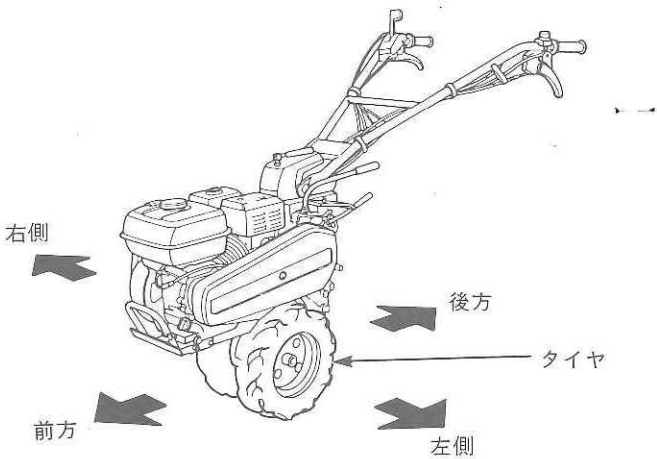
〔KEタイプ〕



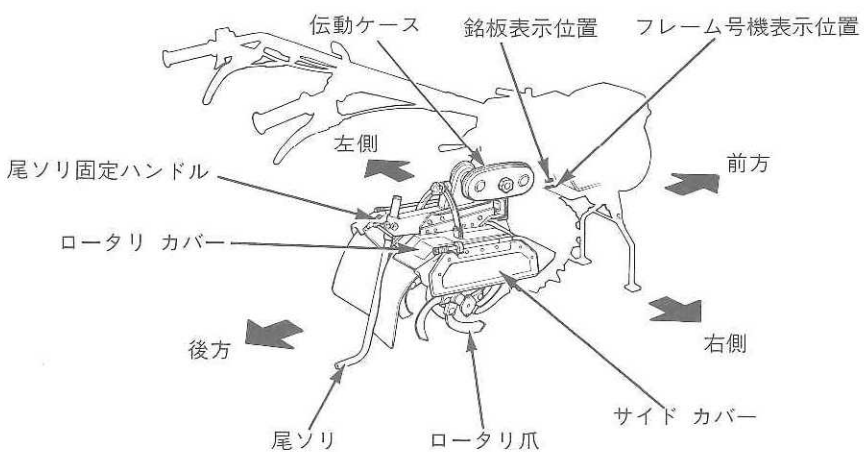
※矢印の方向指示はハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。

〔Rタイプ〕

※各部の名称はKEタイプを参照してください。(スタンドはありません)



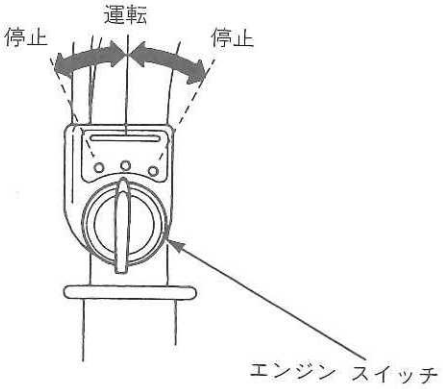
ロータリ部



※矢印の方向指示はハンドル正転時の方向です。ハンドルを反転した場合は方向が逆になります。

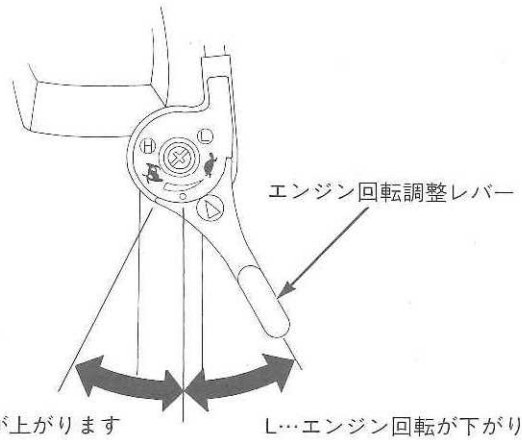
エンジン スイッチ

スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



エンジン回転調整レバー

エンジンの回転を調整するものです。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。

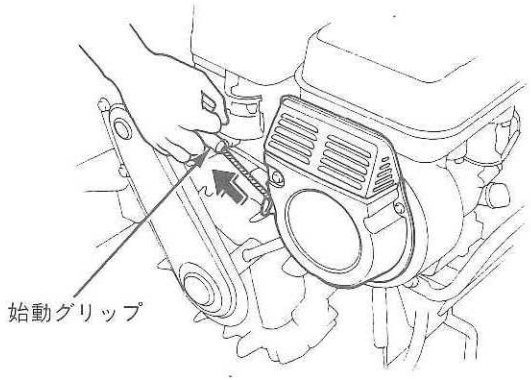


H…エンジン回転が上がります　　L…エンジン回転が下がります

始動…エンジンを始動するときの位置です

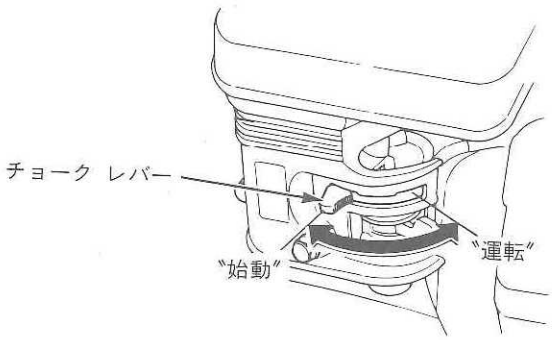
始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。



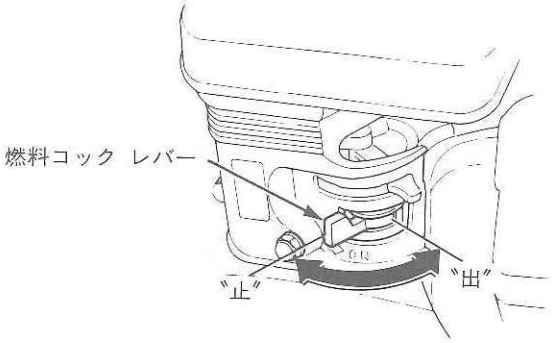
チョーク レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



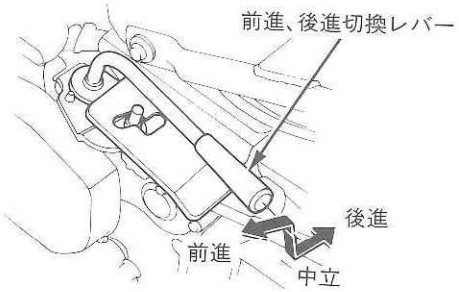
燃料コック レバー

燃料コック レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。



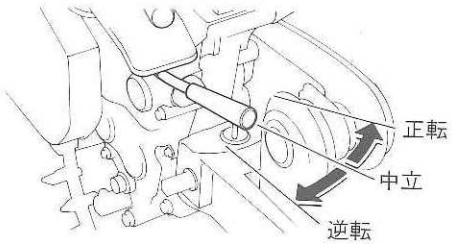
前進、後進切換レバー

前進、後進の切換レバーです。ハンドルを反転した場合は切換レバーを反転してください。



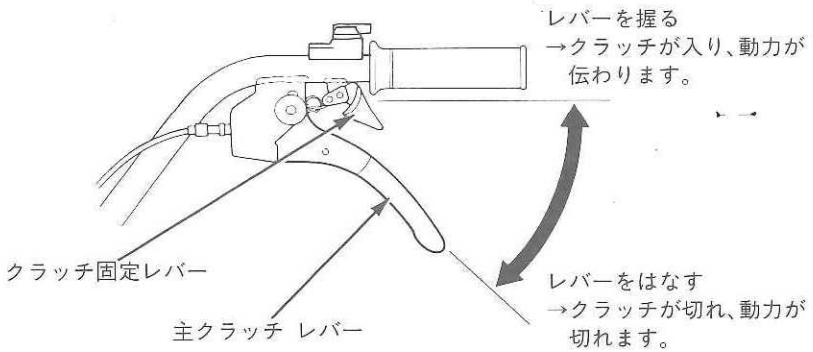
ロータリ切換レバー

・切換レバー操作により**“正転”“中立”“逆転”**に切換えることができます。

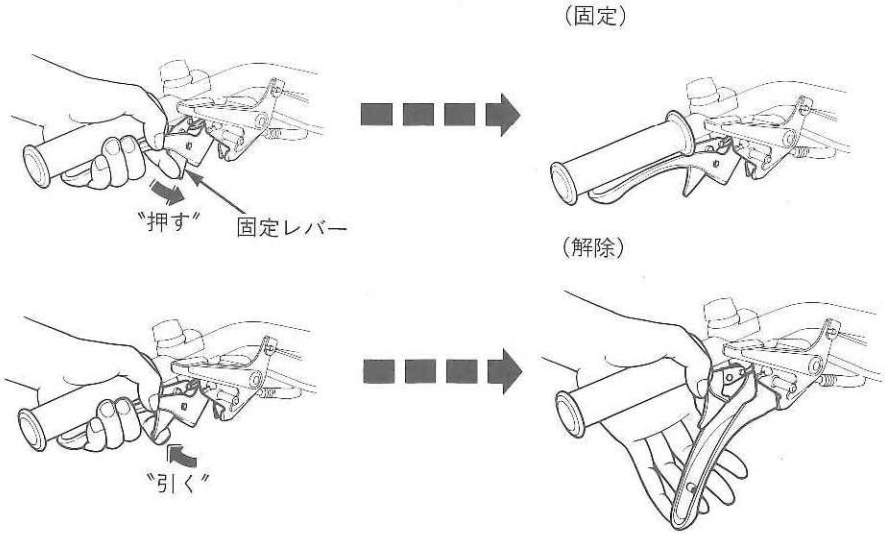


主クラッチ レバー／クラッチ固定レバー

クラッチは、車軸への動力を断接する装置です。

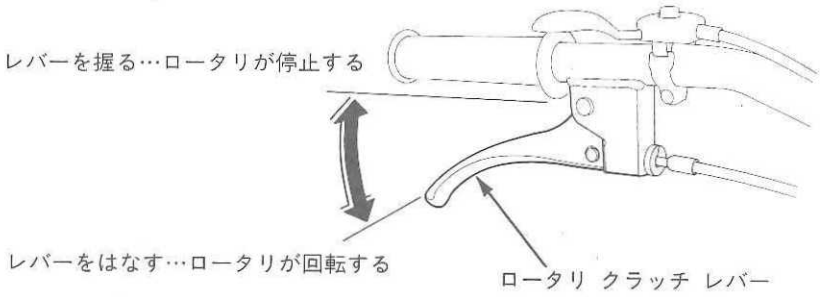


- 主クラッチ レバーを握ってクラッチ固定レバーを指で押すと主クラッチ レバーは固定されます。
- 解除するときは、クラッチ固定レバーを手前に引き、主クラッチ レバーをはなします。



ロータリ クラッチ レバー

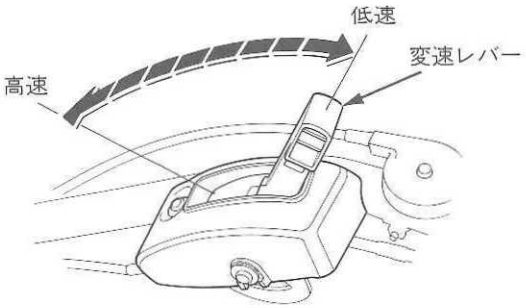
ロータリ軸への動力を断接する装置です。



変速レバー

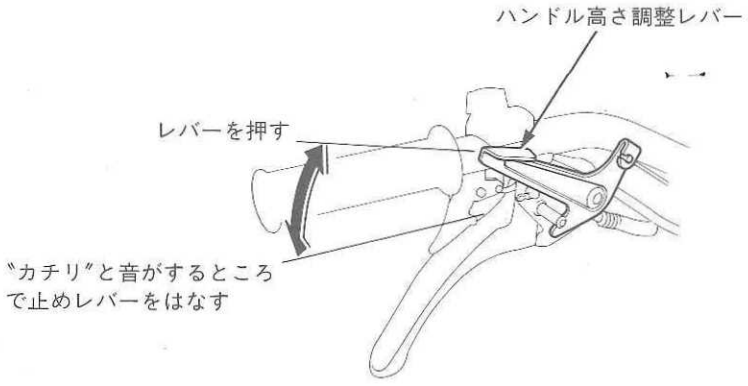
前進、後進の速度を無段階(細いノッチが付いています)に調整することができます。

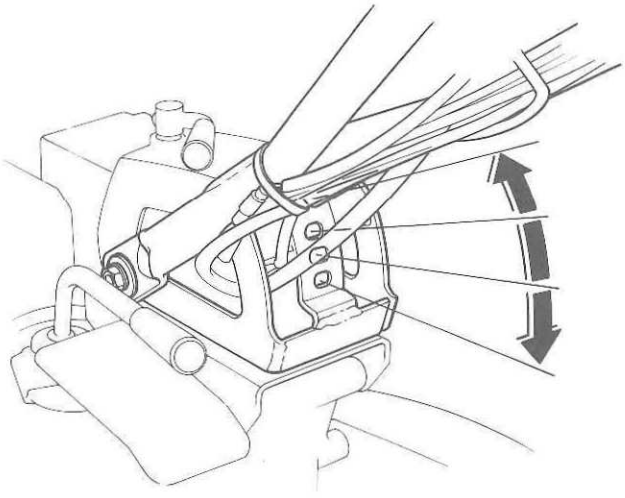
走行中に操作することもできます。主クラッチ レバーを切る必要はありません。



ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。
高さは上下4段階に調整できます。



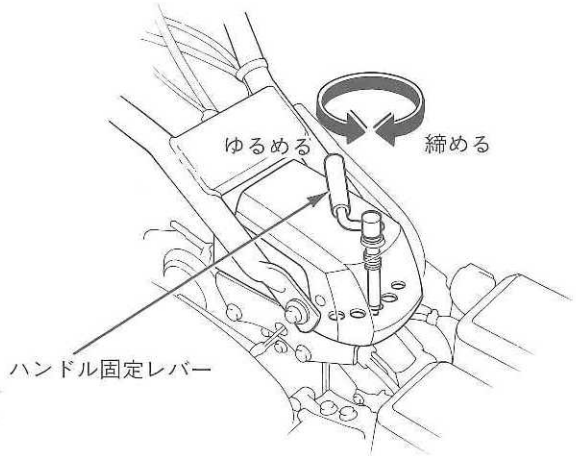


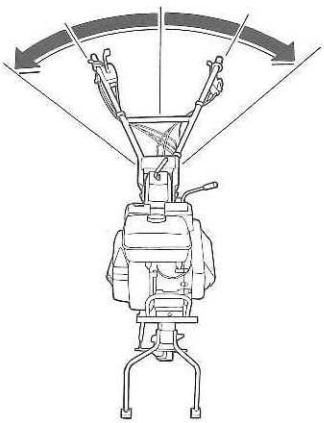
ハンドル固定レバー

ハンドルの左右角度を作業内容に合わせ調整するときに操作するレバーです。

ハンドルの角度は、ハンドルが正転のときは5段階(中央、左右それぞれ16度、32度)、ハンドルを反転した場合は3段階(中央、左右16度)に調整することができます。

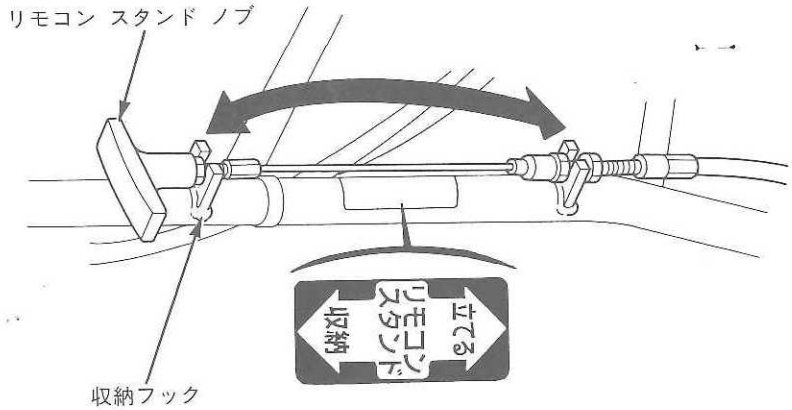
ハンドルを反転する場合はこのレバーを抜き取り反転させます。(34頁参照)



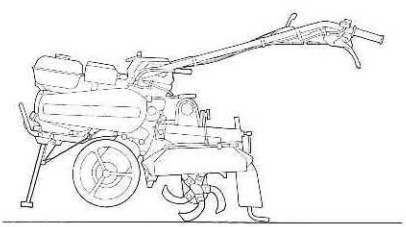


リモコン スタンド ノブ〔KEタイプ〕

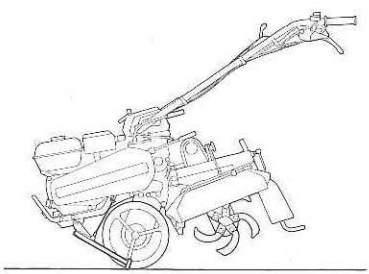
スタンドを立てるとき、収納するときに操作するノブです。(操作のしかたは25頁参照)



● 立てる…スタンドが出ます。



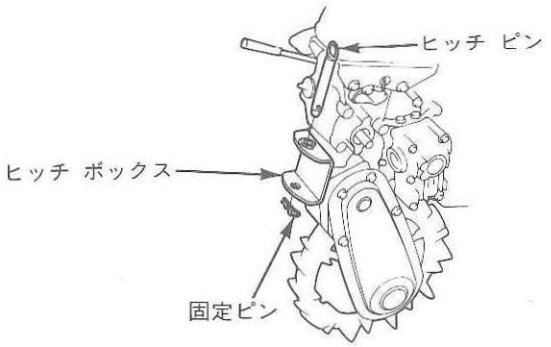
● 収納…スタンドが収納します。



ヒッチ ボックス(作業機取付け部)

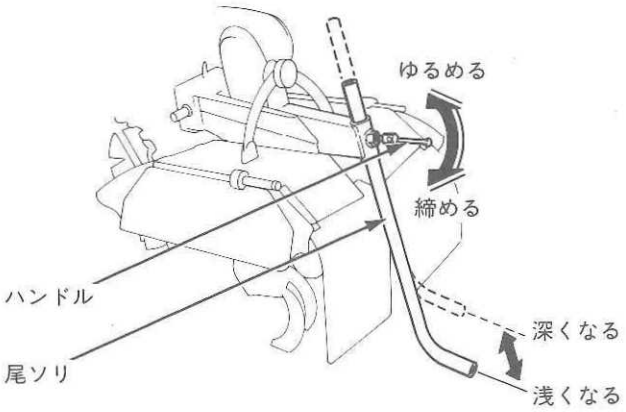
作業機を取付けるところです。

取付けは、ヒッチ ピンを差し込みます。ヒッチ ピンは、固定ピンで取付けます。



尾ソリ

耕うん深さを調節するとき、ハンドルをゆるめ、尾ソリを上下させて耕うん深さを調節します。

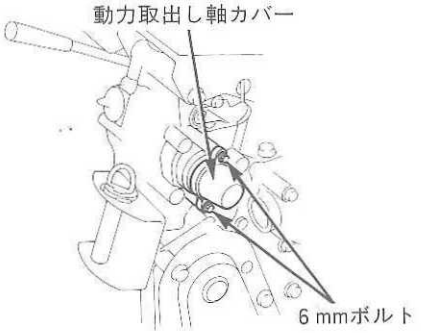


PTO軸(動力取出し軸)

動力を取出す時に使用します。

⚠警告

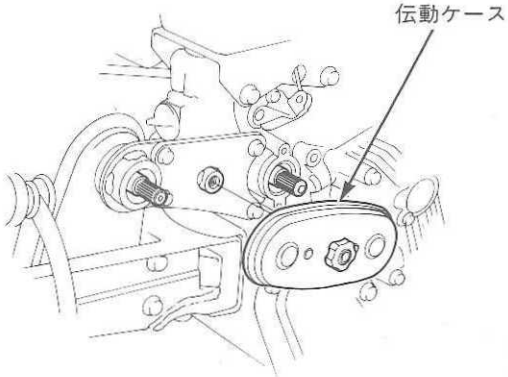
PTO軸を使わないときは常にPTO軸カバーを、取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたりし、ケガをするおそれがあります。





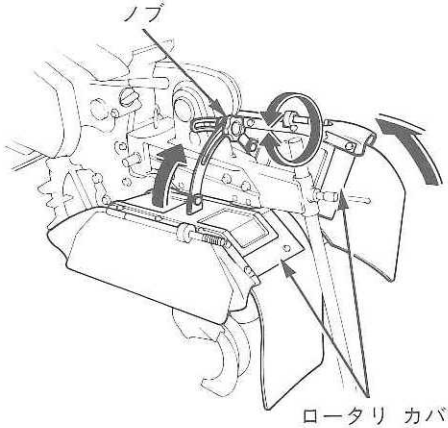
伝動ケース

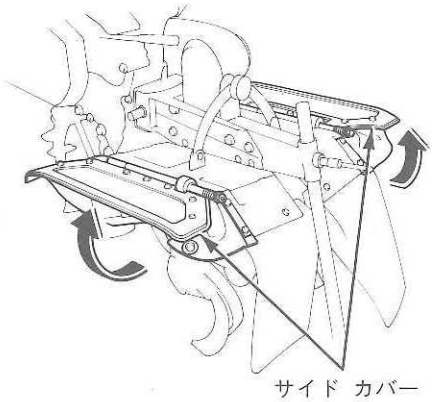
動力をPTO軸から作業機へ伝えるケースです。



ロータリ カバー、サイド カバー

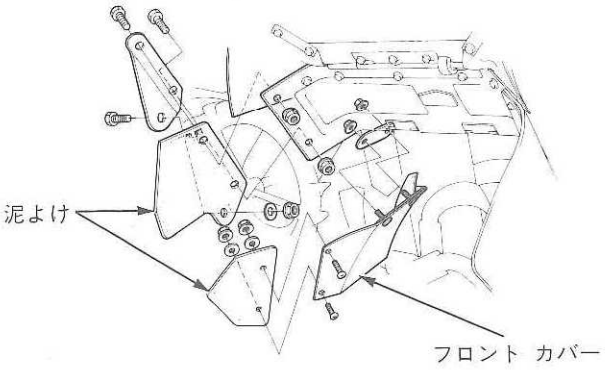
ロータリ カバーは作業に合わせノブをゆるめ開閉することができます。
サイド カバーは作業に合わせ手で開閉します。





フロント カバー、泥よけ

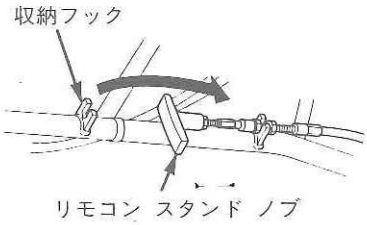
逆転作業時はフロント カバーを取付けて作業してください。

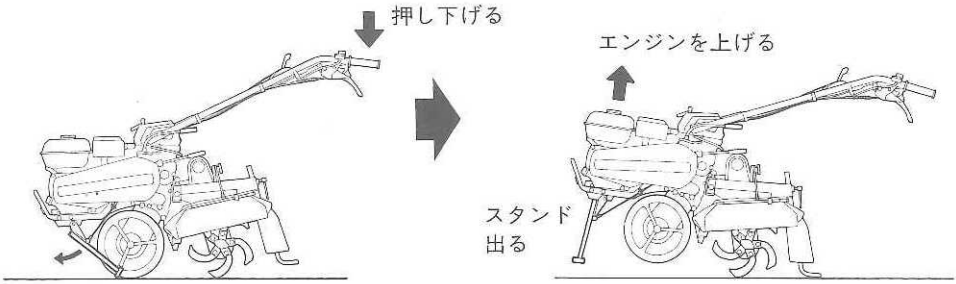


・正転作業をするときも、フロント カバーや泥よけを外す必要はありません。作業によってじゃまになる場合に外してください。

スタンドの立てかた〔Rタイプを除く〕

1．リモコン スタンド ノブを収納フックからはずします。
2．ハンドル高さを最上段にします。(33頁参照)
3．ロータリを支点にハンドルを下に押し下げ、エンジンを上げます。

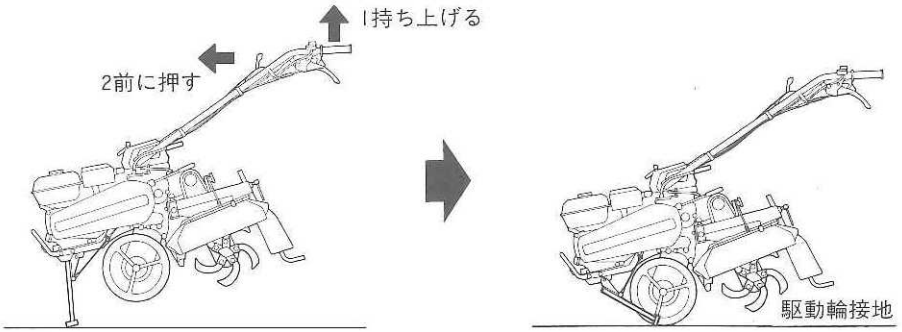




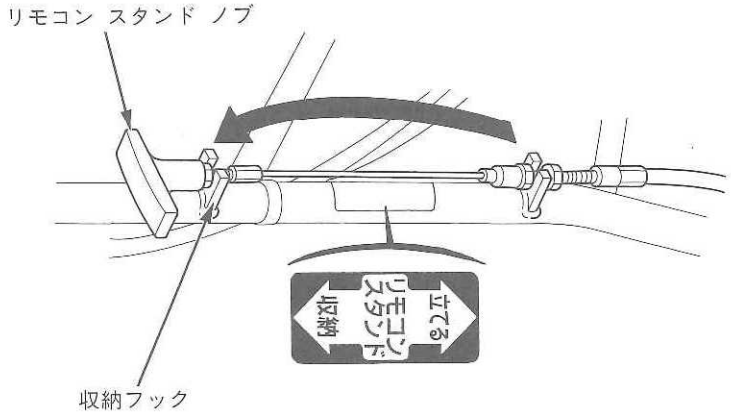
4．スタンドが出たことを確認してエンジンを下げ本機を立ててください。

スタンドの収納

1．ハンドル高さを最下段にします。(33頁参照)
2．ロータリを持ち上げ、本機を前方に押し駆動輪を接地させます。



3．リモコン スタンド ノブを引いて収納フックに掛けてください。



4．スタンドが確実に収納されているか確認してください。

取扱いのポイント

- スタンドを立てた状態で、無理にスタンド レバーを引っ張らないでください。ワイヤ切れや、本機の転倒の原因になる可能性があります。
- スタンドを収納した状態で足や手で無理にスタンドを立てないでください。ワイヤ切れや、スタンドの変形の原因になる可能性があります。

作業前に点検、調整しましょう

⚠警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

●本機のまわり……・燃料の量(28頁参照)、オイルの量(30頁参照)は規定量入っていますか。
・燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
・エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。

●レバーの作動……・レバーの遊び量(68～73頁参照)は規定どおりですか。
・引っかかりはないですか。
・スムーズに作動しますか。

●タイヤの空気圧……・タイヤの空気圧は適正ですか。(31頁参照)〔Rタイプのみ〕

●各部の締付け……・ハンドル固定レバーなどにゆるみ、がたはないですか。
・ボルト、ナットにゆるみはないですか。

●配線、ケーブル類 ……・被覆のやぶれ、切れはないですか。
・配線、ケーブルのはさまりはないですか。

●エンジンの始動、停止 …・エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は46～50頁参照)
・エンジン スイッチで確実に停止しますか。(停止手順は59、60頁参照)

●その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

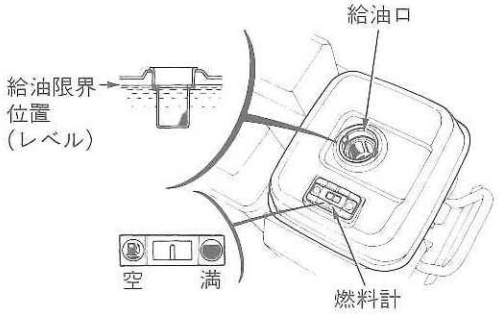
ガソリンの点検

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンの補給は
- エンジンを停止して行ってください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 火気を近づけないでください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行って下さい。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。
  ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。
- ガソリンは注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎるとタンク内のガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。
- 傾斜地では本機がかたむき燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

点検

燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置(レベル)までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。
スタンドを立てた状態では本機が前傾するため正確な量が計れません。燃料ゲージの確認するときは必ず本機を水平に保ってください。



補給

使用ガソリン:無鉛レギュラーガソリン

●燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。

●燃料給油キャップは完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。

●給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。

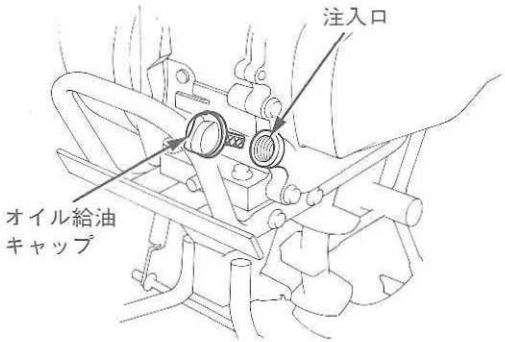
取扱いのポイント

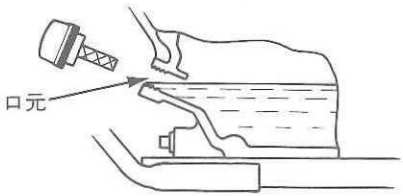
- 必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

エンジン オイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。





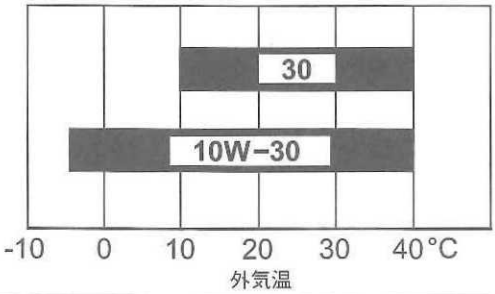
補給

- ●少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- ●汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は62、63頁参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- ●推奨オイル(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

  Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
  またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイル量:0.6ℓ

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

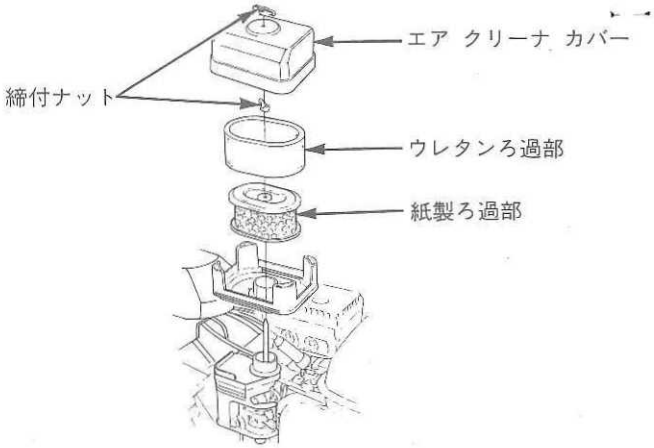


取扱いのポイント

・オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア クリーナ(空気清浄器)の点検

エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。汚れている場合は清掃してください。
(清掃時期、方法は65頁参照)



タイヤ空気圧の点検〔Rタイプのみ〕

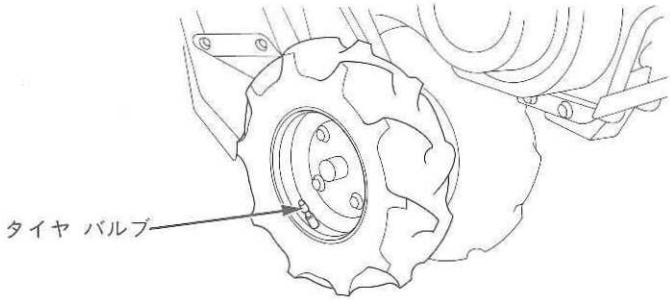
点検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低すぎるとタイヤの寿命を短かくします。
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

補給

バルブ キャップを取外し、タイヤ バルブより空気を注入します。

タイヤ サイズ:3.50—6
標 準 空 気 圧:137kPa(1.4kgf/cm^2)

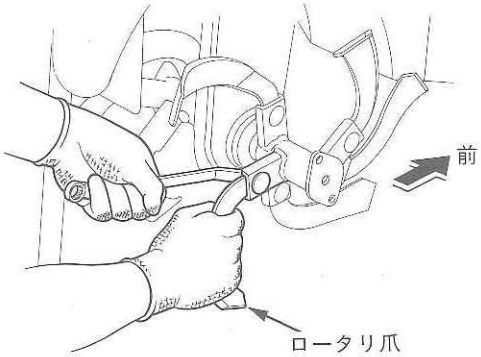


ロータリ爪の点検

⚠注意

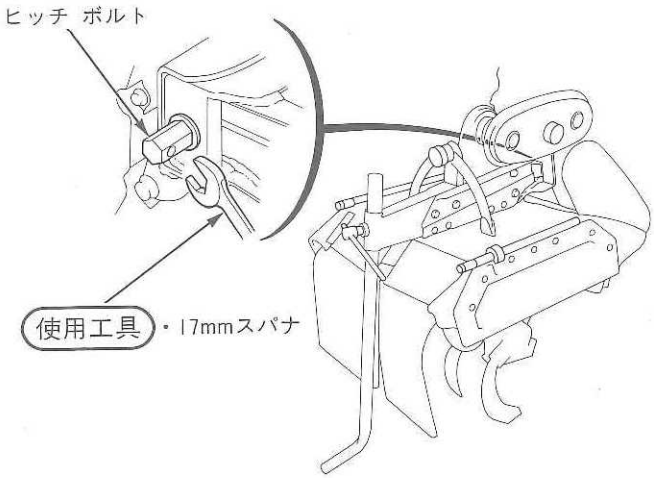
ロータリ爪の点検を行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

ロータリ爪の損傷、曲がり、ゆるみがないか点検してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。交換方法は42頁を参照してください。



ロータリ ヒッチの点検

ヒッチ ボルトがゆるんでいないか点検します。



ハンドルの調整

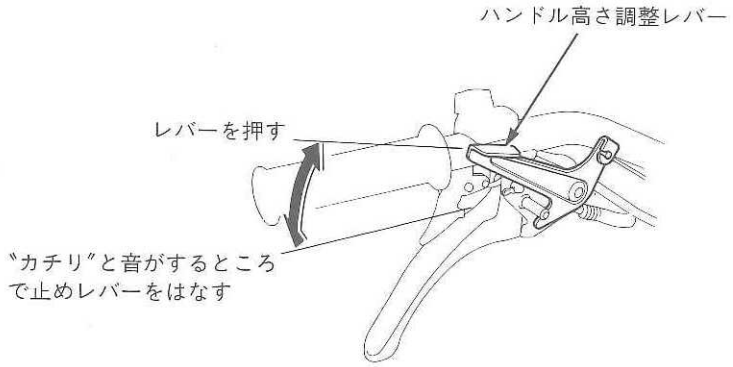
●高さの調整(上・下)

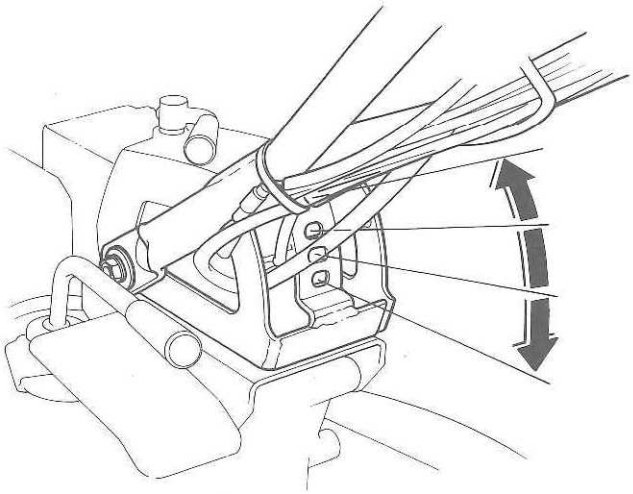
ハンドル高さ調整レバーを押しさげ、作業しやすい位置にハンドルの高さを調整してください。

高さは上下４段階に調整できます。

・ハンドルは**"カチリ"**と音がする位置で固定してください。

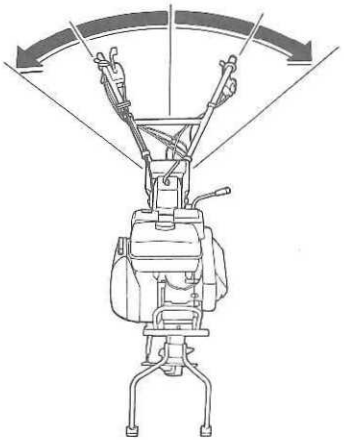
固定されているかハンドルを軽く上下に動かして確認してください。





● 角度の調整(左・右)

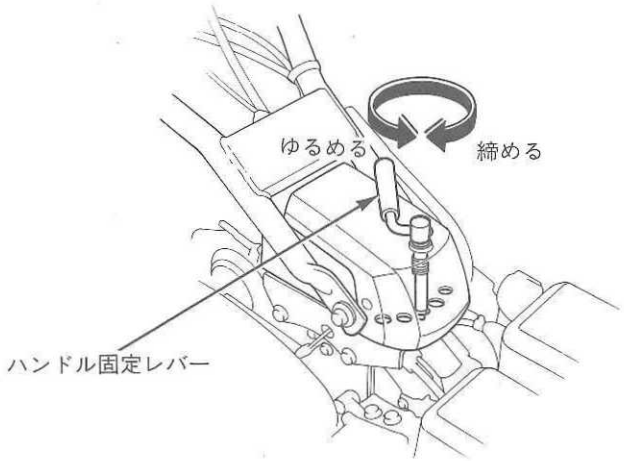
作業内容により、ハンドルの角度は、ハンドルが正転のときは5段階(中央、左右それぞれ16度、32度)、ハンドルを反転した場合は3段階(中央、左右16度)に調整することができます。



《調整のしかた》

1．ハンドル固定レバーをゆるめて抜きとります。

2．ハンドルを作業に合った角度まで回し、上からのぞいて穴位置を確認し、ハンドル固定レバーを取付け確実に締付けます。

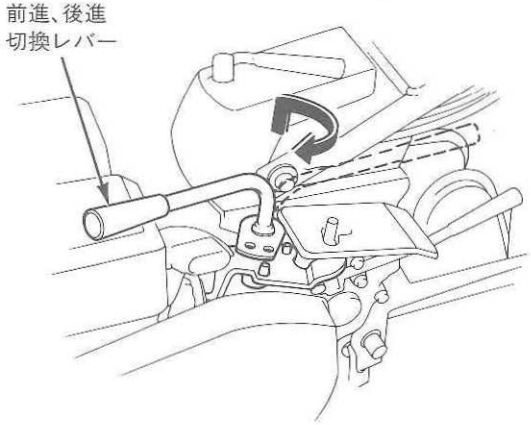


取扱いのポイント

・調整後はレバーを十分に締つけてください。

● 反転のしかた

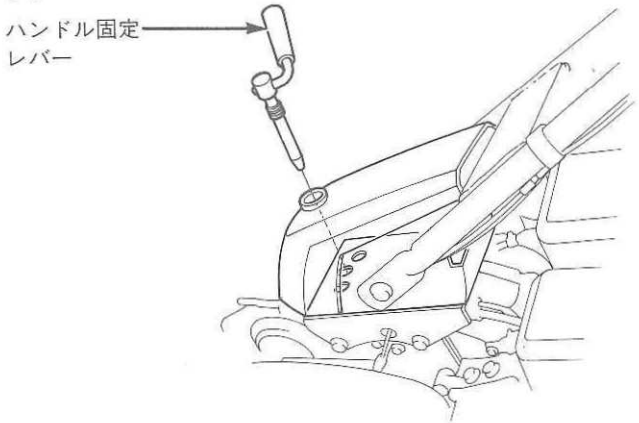
1．前進、後進切換レバーを少し持ち上げ、時計方向(右回り)に回して反転します。



2．ハンドル固定レバーをゆるめて抜き取ります。

3．ハンドルを反時計方向(左回り)に回し、作業に合った角度に合わせます。

上からのぞいて穴位置を確認し、ハンドル固定レバーを取付け確実に締付けます。



⚠注意

ハンドルの反転は、必ずエンジンを停止して行なってください。

・正転に戻すときは、ハンドルを正転してから、前進、後進切換レバーを元の位置に戻してください。

駆動車輪取付けピンの点検

駆動車輪の取付け、取外しを行う時に取扱います。保持ピン、固定ピンが確実に取付けられているか点検します。

⚠注意

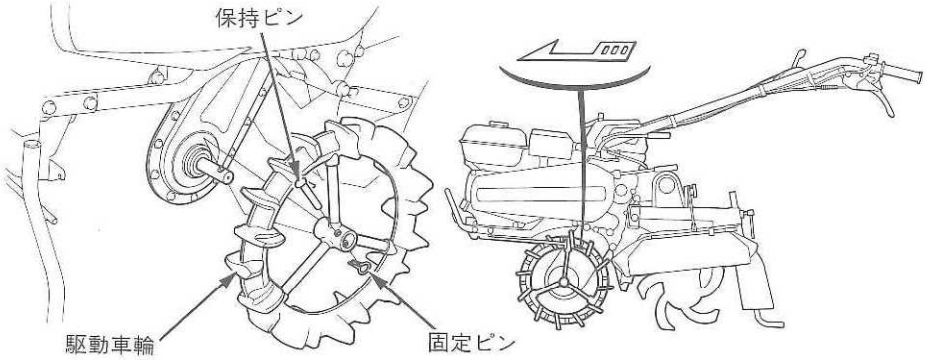
車輪を取外すときは、2人で行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。

駆動車輪の取外し、取付け

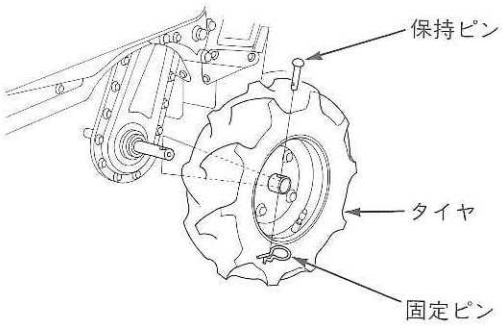
固定ピンを外し、保持ピンを抜いて駆動車輪またはタイヤを取外します。車輪を組付けるときは、車輪についている矢印が前進方向へ向くように取付けます。

・本機は変速機の中に衝撃を緩衝する装置(リリーフ バルブ)が内蔵されています。保持ピンには衝撃を緩衝する機能はありません。

〔KEタイプ〕



〔Rタイプ〕



伝動ケースの入れ換え

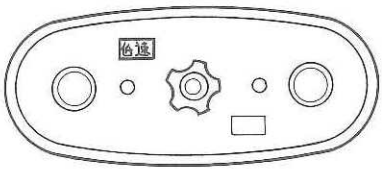
《爪軸回転数》

伝動ケースを反転させ入れ換えることによって、爪軸の回転数を、正転時と逆転時にそれぞれ２段階に設定することができます。

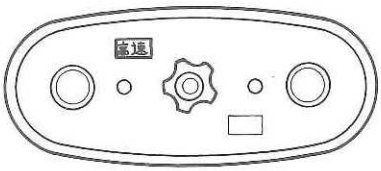
爪軸回転数(rpm)

	伝動ケース	FR415	FR615
正転	低速	247	240
	高速	460	447
逆転	低速	248	241
	高速	462	449

エンジン回転定格時　FR415:3500rpm
FR615:3400rpm



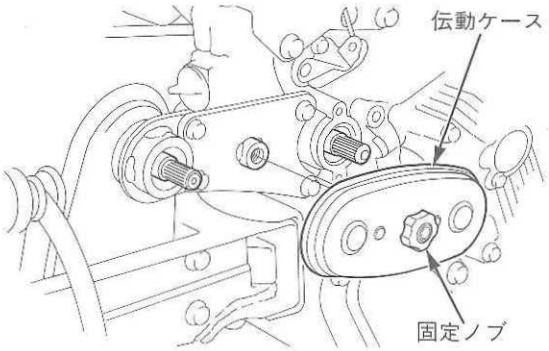
低速



高速

取外し

固定ノブをゆるめ、手前に引いて伝動ケースを取外します。

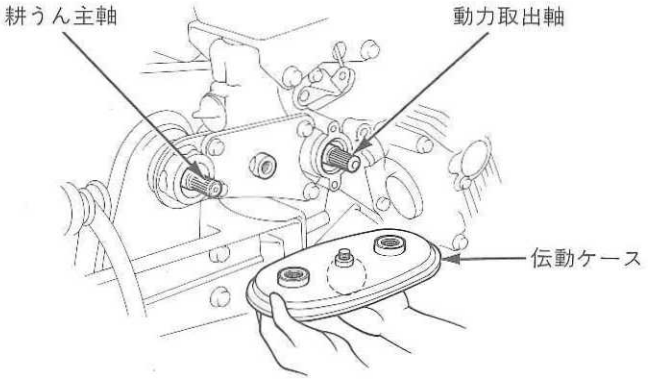


取付け

耕うん主軸と動力取出軸のスプラインに伝動ケースをはめ込み固定ノブで固定します。

・スプラインが合わないときは、エンジン スイッチが“切”の位置になっていることを確認して主クラッチ レバーを**“入”**にし(56頁参照)始動グリップをゆっくり引くと、動力取出軸が回転します。耕うん主軸側のスプラインを先にはめ込んで、始動グリップを少しづつ引きながら動力取出軸のスプラインに合わせてください。

・伝動ケースは動力取出軸と耕うん主軸が見えなくなるまで完全に入れてください。



ロータリの取外し、取付け

⚠注意

・ロータリの取付け、取外しは２人で行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。作業をする間１人は本機が倒れないようにささえてください。

《取外し》

１．燃料コック レバーを**"出"**にし、キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を１～２回転ゆるめ、キャブレータ及び燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。

・完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。

⚠警告

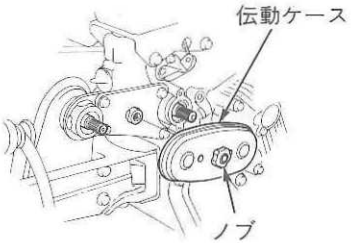
ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

・換気の良い場所で行ってください。

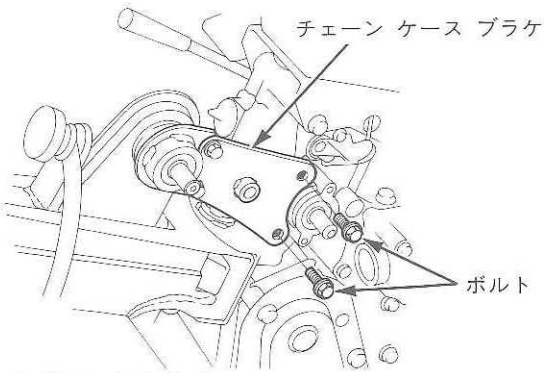
・火気を近づけないでください。



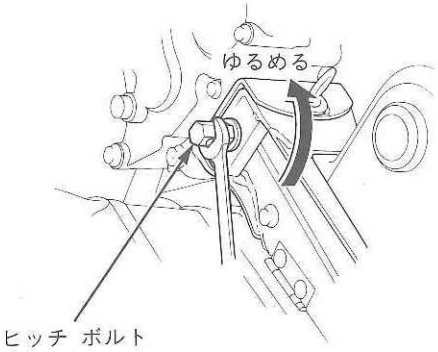
２．ノブをゆるめて伝動ケースを外します。



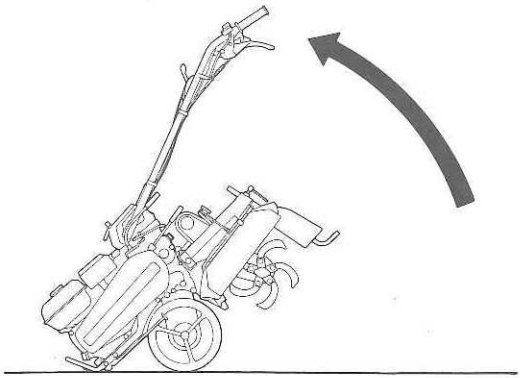
3．チェーン ケース ブラケットの前側２本のボルトを外します。



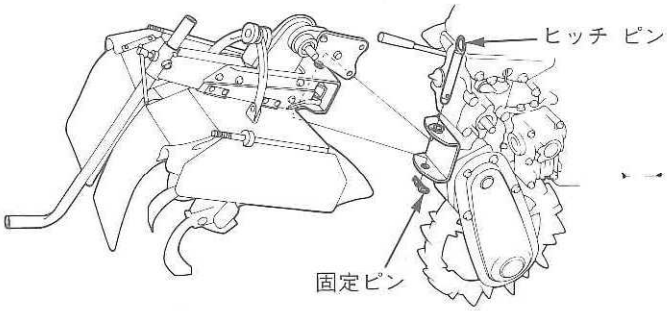
4．ヒッチ ボルトをゆるめます。



5．スタンドを外し、本機を前傾させます。本機が倒れないよう一人がささえてください。



6．固定ピンを抜き、ヒッチ ピンを外します。



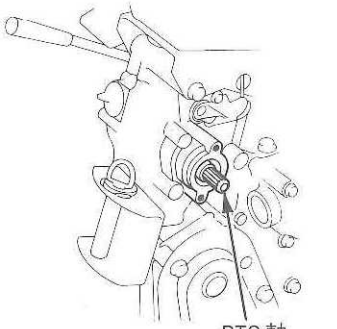
7．ロータリを持ち上げて取外します。
・ロータリを外した本機はスタンドを立てても安定させることはできません。アタッチメントを取付けておくか、柱等に固定して倒れないようにしておいてください。

8．培土機など、本機の動力を使わない作業機を取付ける場合は、PTO軸に同梱部品のカバーを取付けます。

⚠警告

・PTO軸（動力取出し軸）カバーはPTO軸を使わないときは常にカバーを取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きついたり、ケガをするおそれがあります。





《取付け》

ガソリンを抜き、取外しの逆手順で取付けてください。

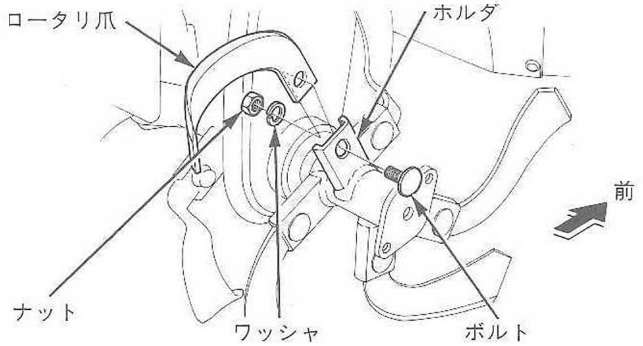
ロータリ爪の取外し、取付け

⚠注意

ロータリ爪の交換を行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

《取外し》

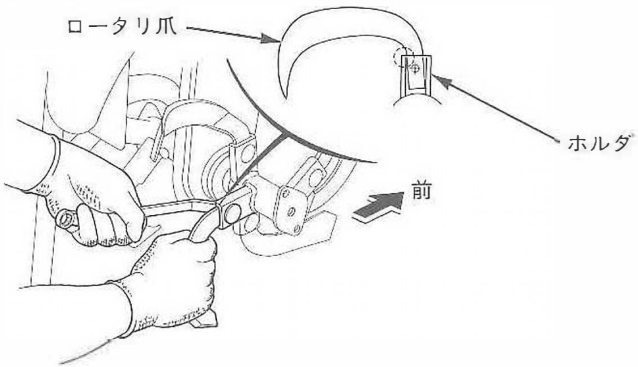
17mmメガネ レンチでナットを外し、ボルトとワッシャを外します。爪をホルダから取外します。



《取付け》

取付けはホルダの長穴にボルトの頭を入れ、ナットを確実に締付けます。

・ロータリ爪とホルダの隙間を無くすため、図のようにロータリ爪を手で押えながらナットを締付けてください。爪とホルダの間に隙間があると爪がゆるみやすくなります。

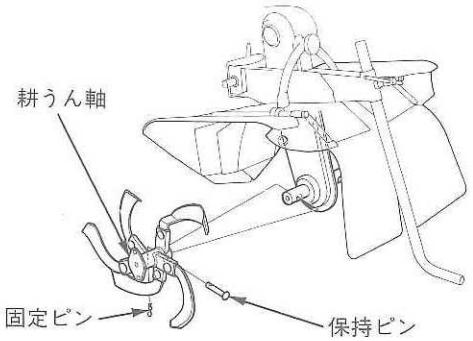


耕うん軸の取外し、取付け

固定ピンを外して、保持ピンを抜き、耕うん軸を取外します。
取付けは取外しの逆手順で取付けてください。
固定ピンは図の方向から差し込んでください。

⚠注意

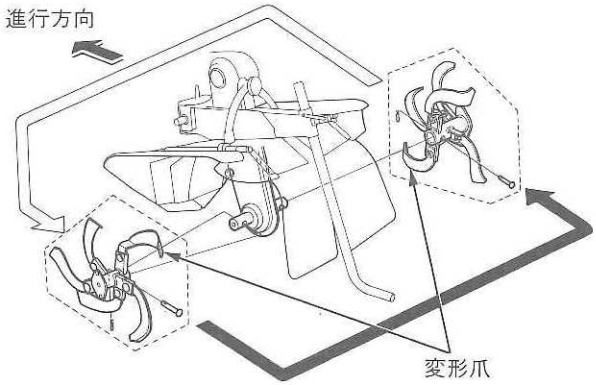
耕うん軸の取付け、取外しは、平坦な場所で行ってください。バランスがくずれ思わぬ事故を引きおこすおそれがあります。



逆転時の耕うん軸の取付け

下図は正転時を基本とし、逆転時の取付け方を矢印で表わしています。
左右の耕うん軸を入れ替えて取付けてください。

- ロータリ回転切換レバーの操作で正転、逆転の作業ができます。
- Vカット ロータリの左、右の耕うん軸は、変形爪を180°ずらして取付けます。



ロータリ爪の取付け方向

下図のようにそれぞれの方向に爪を取付けてください。

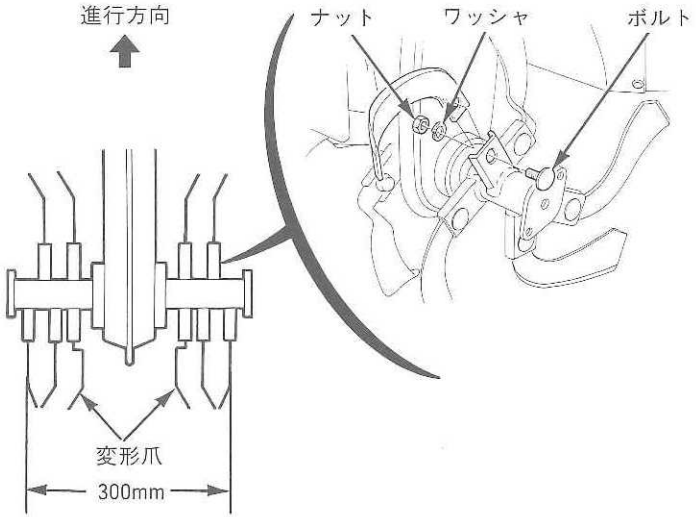
・ボルト、ワッシャ、ナットは常に同一方向から取付けます。

⚠注意

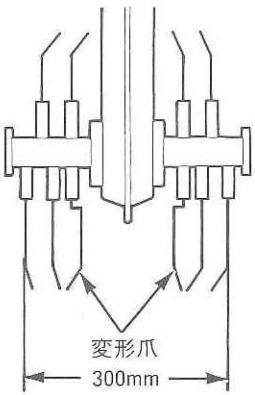
・ロータリ爪の取付けは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

〔標準ロータリ〕

《外爪》



《内爪》

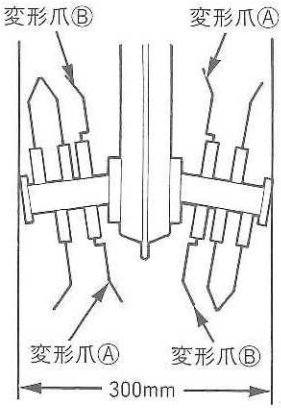


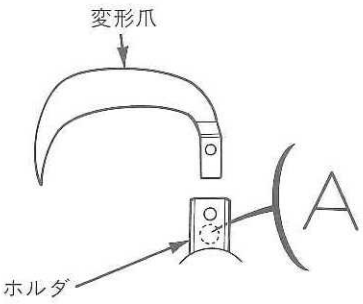
〔Vカットロータリ〕

・変形爪はⒶの刻印のあるホルダに取付けます。

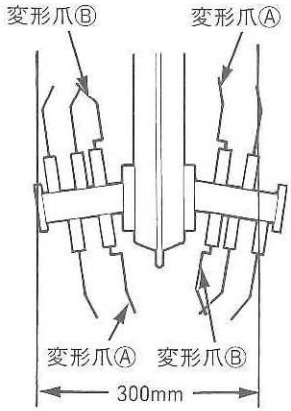
・中耕培土作業は外爪で行ってください。

《外爪》





《内爪》

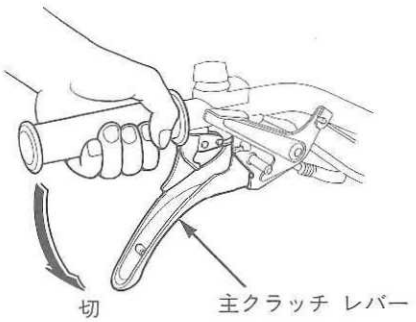


エンジンのかけかた

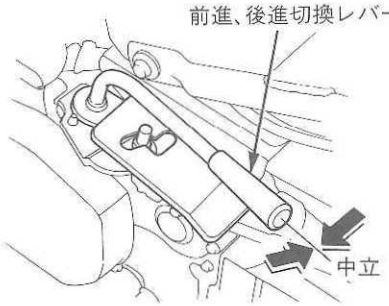
⚠警告

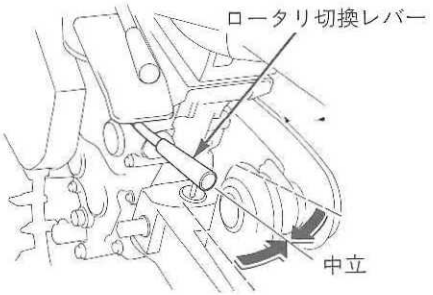
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒のおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 回りで作業をしている人がいたら回りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから始動してください。火災の原因になることがあります。
- 主クラッチ レバーが"切"、変速レバーが"中立"になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っていると急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

1．主クラッチ レバーが**"切"**になっているか確認します。

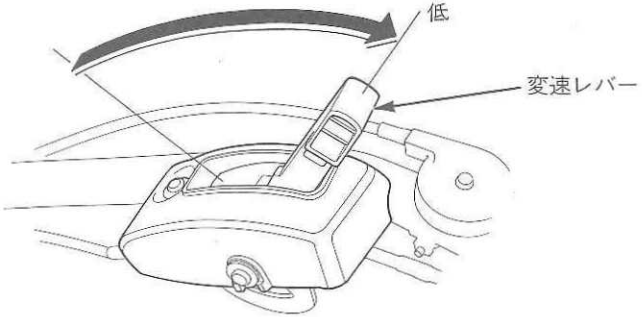


2．前進、後進切換レバーとロータリ切換レバーが**“中立”**になっているか確認します。

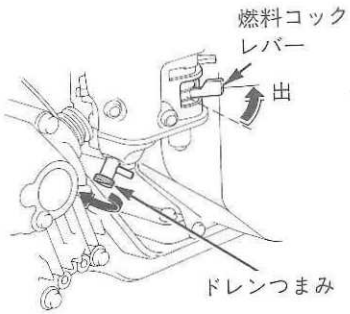


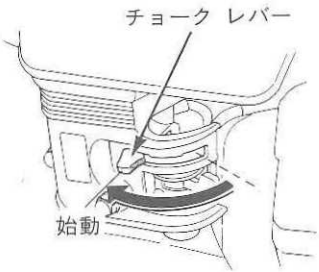


3．変速レバーが**“低”**の位置になっていることを確認します。

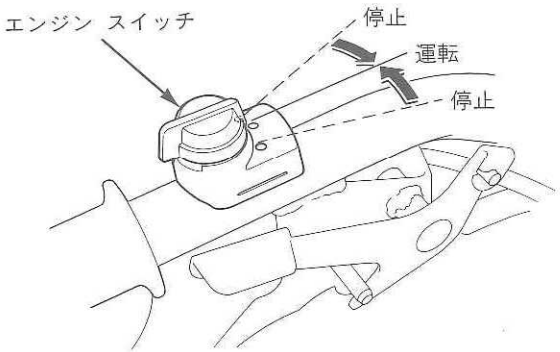


4．ドレンつまみが確実にしまっていることを確認し、燃料コック レバーを**“出”**にします。
寒い時やエンジンがかかりにくいときには、チョーク レバーを**“始動”**の位置にします。

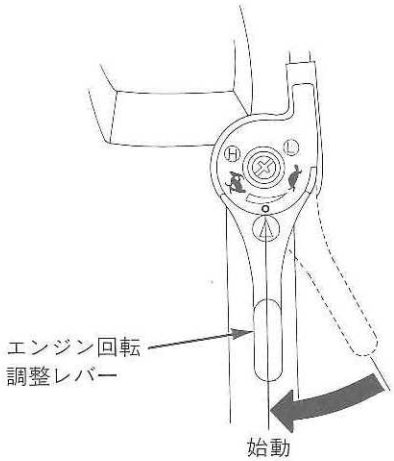




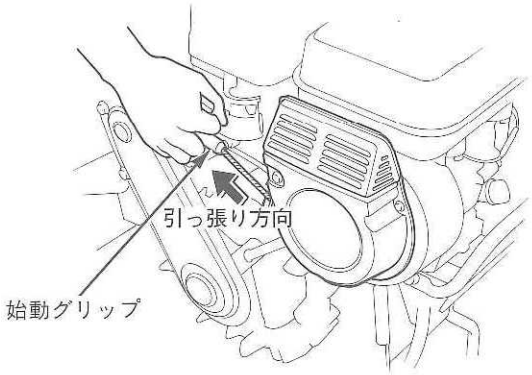
5．エンジン スイッチを**“運転”**にします。



6．エンジン回転調整レバーを**“始動”**の位置に合わせます。



7．ハンドル コラムを左手でおさえ、右手で始動グリップを引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



⚠注意

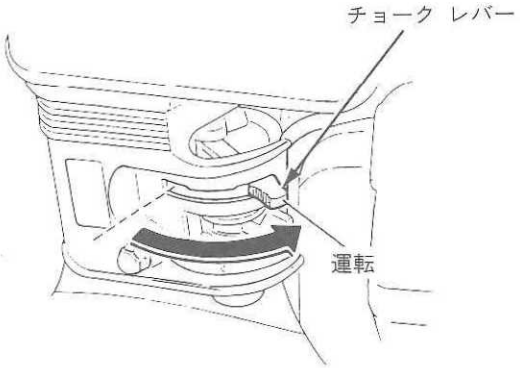
・始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

取扱いのポイント

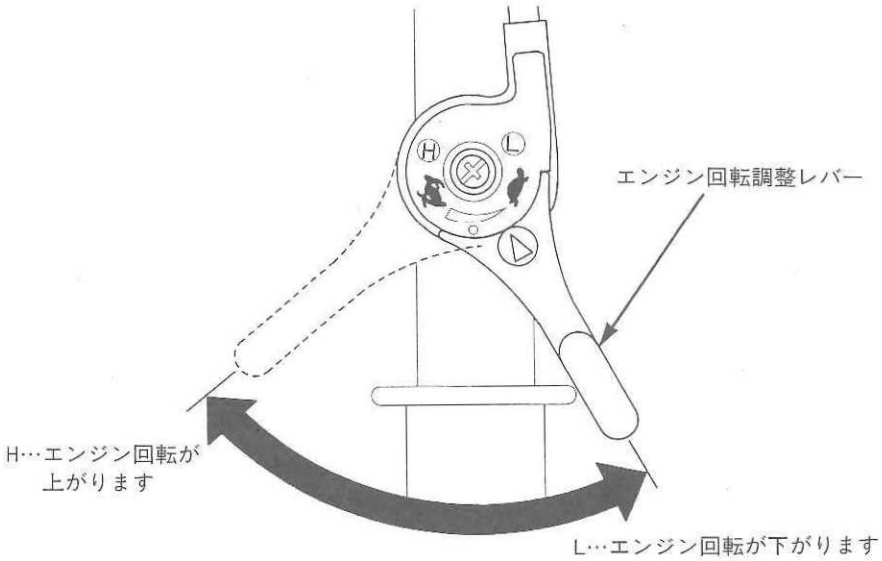
・始動グリップを引いたあと手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。
・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

8．エンジンが始動します。

9．2～3分間暖機運転を行います。チョーク レバーを**“始動”**にした時は、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**“運転”**の方向に戻します。



10. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

ロータリ

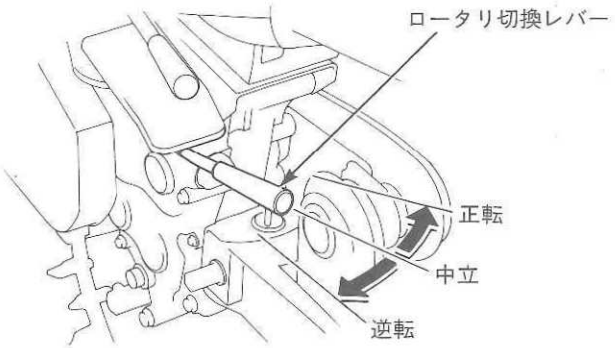
●ロータリ切換レバー

・切換レバー操作により**“正転”“中立”“逆転”**に切換えることができます。

正転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と同方向に回転します。

中立…耕うん爪は回転しません。

逆転…耕うん爪は本機前進時の駆動車輪回転方向と逆方向に回転します。



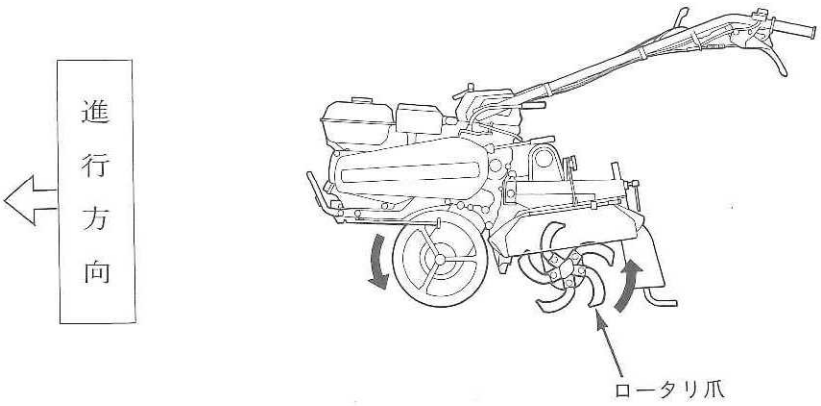


取扱いのポイント

・切換レバーの操作を行うときは、必ず本機の主クラッチ レバーを**“切”**にしてください。

・操作がスムーズにいかないときは、前進、後進切換レバーを**“中立”**にし主クラッチ レバーを入にして少し動かし、主クラッチを切にしてもう一度操作してください。

《正転》

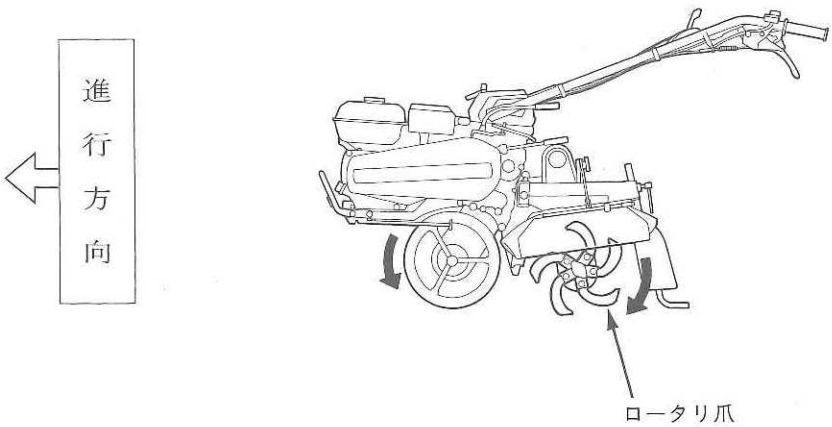


ロータリ切換レバーを“正転”から“逆転”、“逆転”から“正転”へ切換えて作業を行う時は左右の耕うん軸を入換えてください(43頁参照)。

⚠注意

・正転作業のときに逆転へ、逆転作業のときに正転へレバーを切換えないでください。本機が飛び出し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

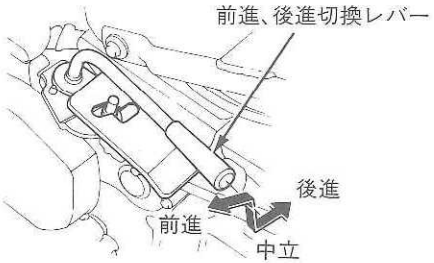
《逆転》

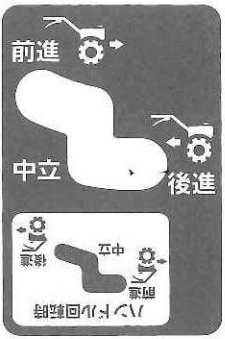


前進、後進

● 前進、後進切換レバー

前進、後進の切換レバーです。





・操作のしかた

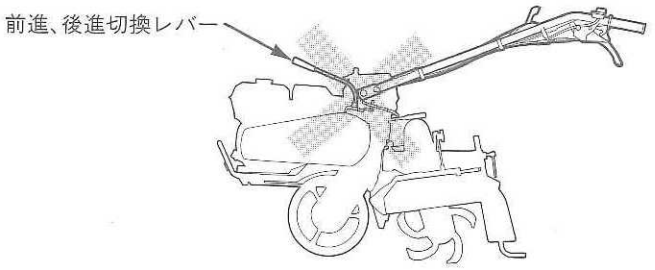
1．主クラッチ レバーを**“切”**にします。
2．ロータリ切換レバーを**“中立”**にして、ロータリ爪が完全に止まっていることを確認します。
3．エンジン回転調整レバーを**“L”**の位置にして、エンジンの回転をさげます。
4．前進、後進切換レバー操作します。
5．進行方向をよく確認してから主クラッチ レバーを握ります。

⚠警告

後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

・後方に人や障害物がないことを確認してください。
・エンジン回転を下げてください。
・ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
・クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にしてください。
・ハンドルが正転の位置で、前進、後進切換レバーを反転しての作業は行わないでください。

・ハンドルが正転の位置で前進、後進切換レバーが後進に入っているとロータリ切換レバーが入らない、またロータリ切換レバーが入っていると前進、後進切換レバーが操作できない構造になっています。しかし、前進、後進切換レバーを逆転させるとこの機構が働かなくなり大変危険です。ハンドルを反転したとき以外は必ず前進、後進切換レバーを正転方向にしておいてください。



運転

●主クラッチ レバー

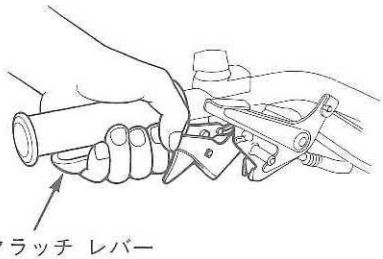
主クラッチ レバーを操作することより、本機の走行及び停止が行えます。

⚠注意

本機の操作を行うときは、ハンドル後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

《走行》

・レバーを握る……・本機が走行します。
・ロータリが回転します。



《停止》

レバーを放す……・本機が停止します。
・ロータリが停止します。
・前進、後進切換レバーの操作ができます。
・ロータリ切換レバーの操作ができます。



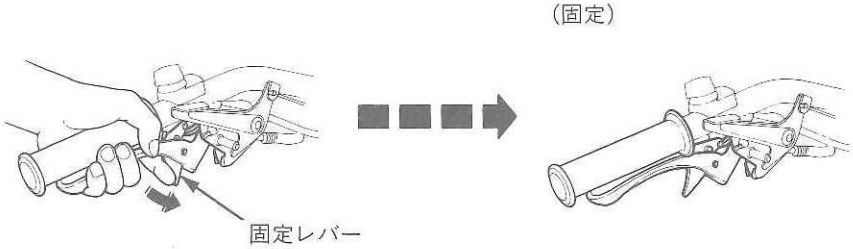
取扱いのポイント

・主クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行います。
・急激な操作を行うと本機が飛び出したり、エンジンが停止したりすることがあります。

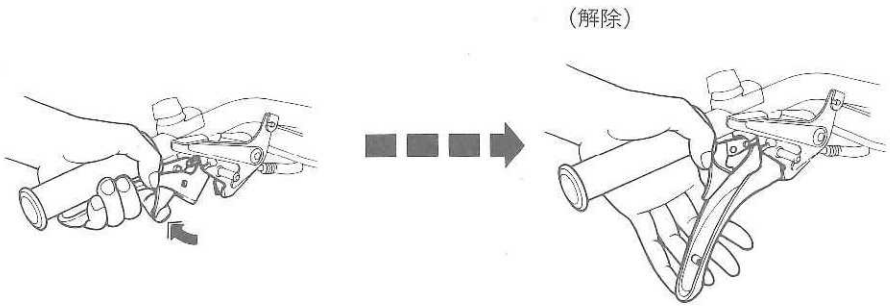
●クラッチ固定レバー

クラッチ固定レバーを操作することにより、主クラッチ レバーは握ったままの状態が保持できます。広い耕地や長時間使用するときに便利です。

- 主クラッチ レバーの固定のしかた
  主クラッチ レバーを握って固定レバーを人差し指で押すと主クラッチ レバーは固定されます。



- 主クラッチ レバーの固定解除のしかた
  解除するときは、固定レバーを人差し指で手前に引き、主クラッチ レバーを放します。

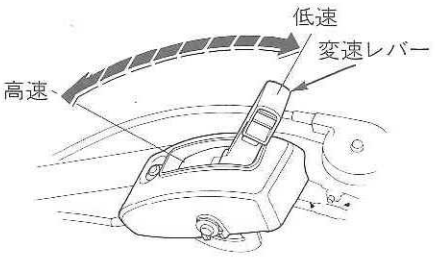


⚠注意

固定レバーは狭いハウス内、障害物のある耕地では使用しないでください。
ハウスや障害物に衝突し思わぬ事故の原因となります。
固定レバーを使用し作業を行う時は、状況に応じすぐ解除できる状態を保ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

●変速レバー

前進、後進の速度を無段階(細いノッチが付いています)に調整することができます。
走行中に操作することもできます。主クラッチ レバーを切る必要はありません。



・変速レバーを最低速の位置にすると、主クラッチ レバーを握っても上り坂や、不整地などでは本機が動かない場合があります。
このようなときはレバーを高速側に動かしてください。

⚠注意

・エンジンをかけたまま主クラッチ レバーを固定した状態で放置しないでください。本機が動き始めることがあり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

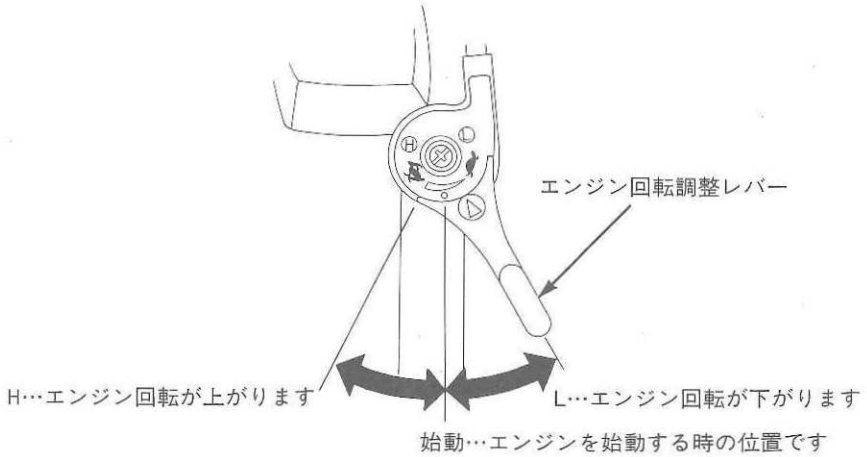
《作業速度》

作物やほ場にあわせて適切な作業速度を選択してください。
以下の表は標準的な作業速度を示しています。作業の目安にしてください。

車速 m/s / 作業	前進 0.9 0.8 0.7 0.6 0.5 0.4 0.3 0.2 0.1	後進 0.1 0.2 0.3 0.4 0.5 0.6
レバー位置	4 0 3 0 2 0 100	001 2 0 3 0 4
中耕 中耕培土	▨	
覆　土	▨	▨
溝掘り	▨	▨
うね立て 同時マルチ	▨	
堀取り (ねぎ)		▨

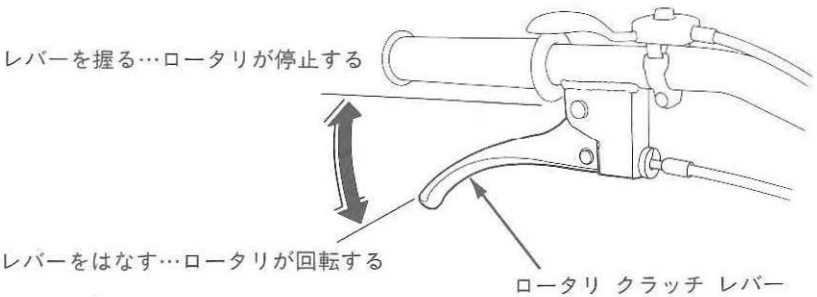
●エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を調整します。
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



●ロータリ クラッチ レバー

ロータリ軸への動力を断接する装置です。

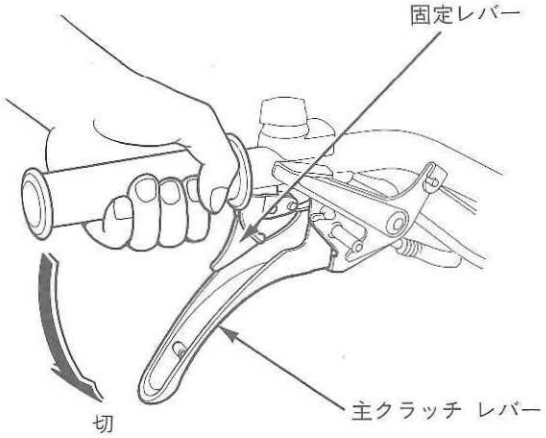


⚠注意

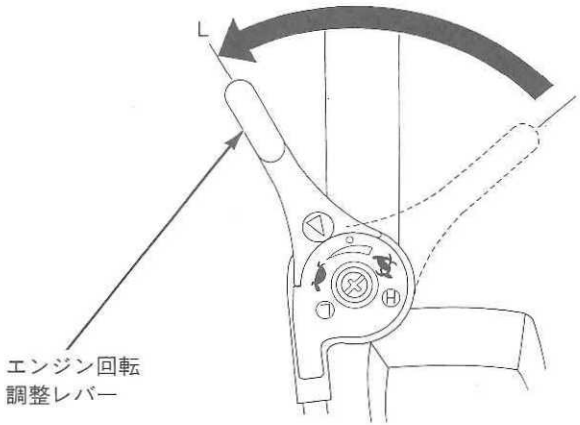
・ほ場での移動など少し長い移動のときはロータリ クラッチ レバーを使用しないで、ロータリ切換レバーを“中立”にして移動してください。移動中、回転している爪に異物が当たって本機を損傷させたり、とび散った異物により、ケガをするおそれがあります。

エ　ン　ジ　ン　の　と　め　か　た

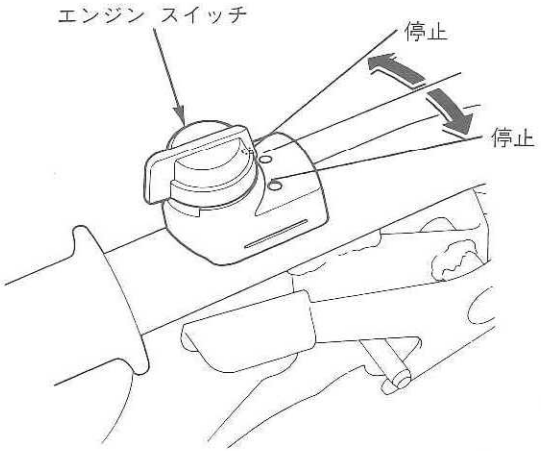
1．主クラッチ レバーを**“切”**にします。
　・主クラッチ レバーが固定されている場合は、固定レバーを引いてから主クラッチ レバーをはなして**“切”**にします。



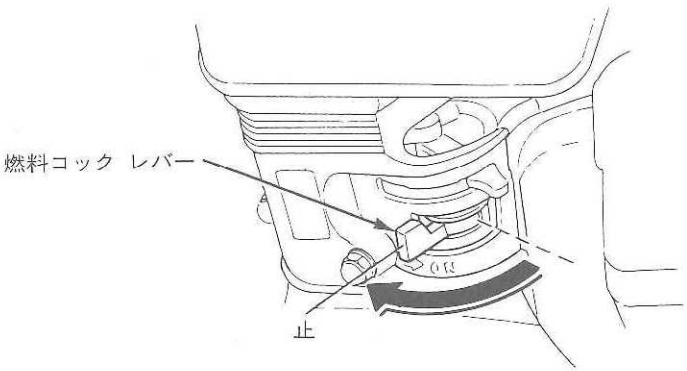
2．変速レバーを**“低”**の位置にします。
3．前進、後進切換レバーとロータリ切換レバーを**“中立”**にします。
4．エンジン回転調整レバーを**“L”**の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



5．エンジン スイッチを“**停止**”に合わせます。



6．燃料コック レバーを“**止**”に合わせます。



定　期　手　入　れ　を　行　い　ま　し　ょ　う

定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時期(2)		作業前点検	1ヶ月目または初回20時間運転時	3ヶ月毎または50時間運転毎	6ヶ月毎または100時間運転毎	1年毎または300時間運転毎
エンジン オイル	点検	○				
	交換		○		○	
本機周りの点検	点検	○				
レバーの作動	点検	○				
各部の締付け	点検	○				
駆動車輪取付けピン、ヒッチピン	点検	○				
配線、ケーブル類	点検	○				
ロータリ爪、ヒッチの弛み	点検	○				
ロータリ各部の弛み	点検	春、秋のシーズン前				
ロータリ各部の給油及びグリス	塗布					○
エンジンの作動	点検	○				
タイヤ空気圧(Rタイプ)	点検	○				
変速機オイル	点検		○			○
	交換	2年毎(3)				
ロータリ チェーン ケース オイル	点検	春、秋のシーズン前				
エア クリーナ	点検	○				
	清掃			○(1)		
点火プラグ	点検-調整				○	
	交換					○
燃料ろ過カップ	清掃				○	
アイドル回転	点検-調整					○(3)
吸入、排気弁すき間	点検-調整					○(3)
燃焼室	清掃	500時間運転毎(3)(4)				
主クラッチ ケーブル	点検-調整		○		○	
リモコン スタンドノブケーブル	点検-調整					○
エンジン回転調整ケーブル	点検-調整					○
変速レバー ケーブル	点検-調整					○
車速調整ケーブル	点検-調整					○(3)
ロータリ クラッチ ケーブル	点検-調整					○
ハンドル高さ調整レバー ケーブル	点検-調整					○
駆動ベルト	点検-調整		○(3)		○(3)	
燃料タンク及びフィルター	清掃					○(3)
燃料チューブ	点検	2年毎(必要なら交換)(3)				

(1)ホコリの多い所(逆転土揚げ等)で使用した場合は、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行ってください。
(2)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。
(3)これからの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
(4)表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

・点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

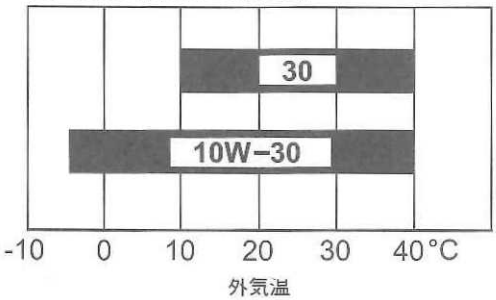
エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》　初回：1ヶ月目または20時間運転時、以後：6ヶ月毎または100時間運転毎。

《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

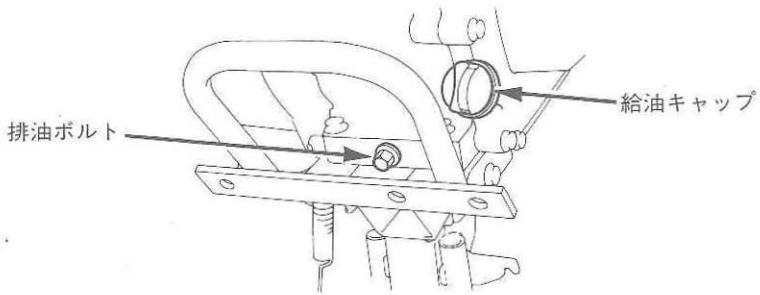
エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《エンジン オイル量》 0.6ℓ

交換のしかた

1．オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2．排油ボルトをきれいに洗い、シリンダ バレルに確実に締付けます。
3．注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4．注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



⚠注意

エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

取扱いのポイント

・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検･交換を行いましょう。
・必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
・交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。
不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

変速機オイルの点検

変速機オイルの量が少ないと変速機各部の摩耗を早めます。

《点検時期》 初回：1ヶ月目または20時間運転時、以後：1年毎または300時間運転毎

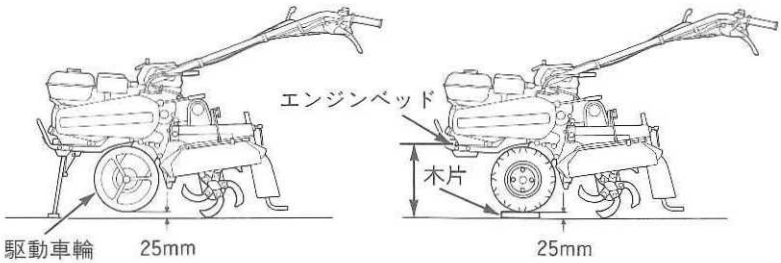
指定オイル：Honda純正　H—HST　オイル

☆変速機オイルは専用オイルを使用しております。オイルの補充はお買いあげ販売店にお申しつけください。

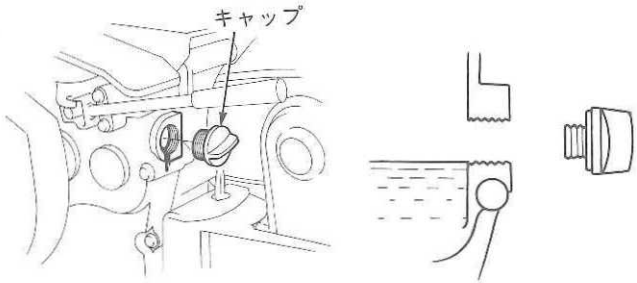
点検のしかた

1．安定した平坦な場所で本機のスタンドを立てます。

2．スタンドとロータリ爪が接地し、駆動車輪と地面の間が25mmになっていることを確認します。Rタイプはタイヤの下に25mmの木片等を入れエンジン ベッドが水平になるようにして確認してください。



3．点検穴のキャップを外し、口元までオイルがあるか確認します。



取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

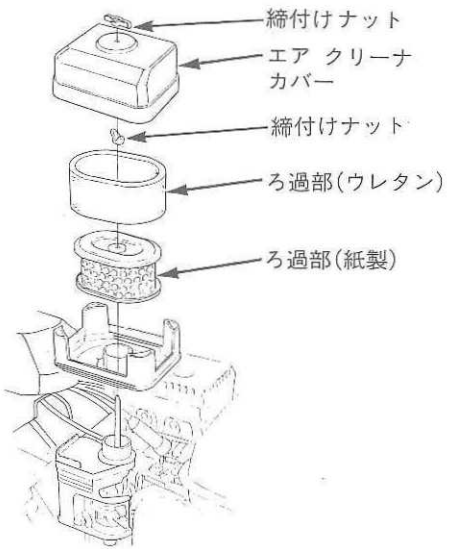
エア クリーナが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》　3ヶ月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回または10時間運転毎。

1. 締付けナットをゆるめ、図のようにエア クリーナ カバーを取り、ろ過部を取外します。
2. ウレタンのろ過部は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. 紙のろ過部は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. 点検後はエア クリーナ カバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。



取扱いのポイント

- エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

点火プラグの点検、調整、交換

⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、火花すき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検、調整時期》　6ヶ月毎または100時間運転毎

《交換時期》　1年毎または300時間運転毎

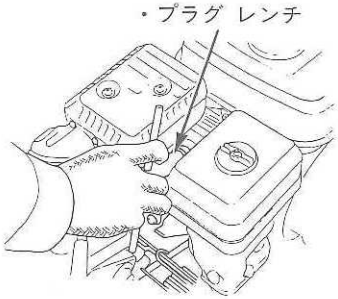
《清掃》

1．点火プラグ キャップを取外します。

2．プラグ レンチで点火プラグを取外します。

3．点火プラグを清掃します。プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。

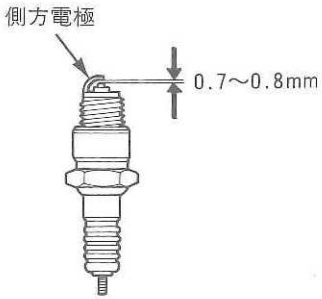
・プラグ クリーナが無いときは針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。



《調整》

側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

火花すき間:0.7～0.8mm



《標準プラグ》

BP5ES(NGK)、W16EP-U(DENSO)

取扱いのポイント

・故障の原因となるので標準以外のプラグを使用しないでください。

・プラグの取り付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

・点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

燃料ろ過カップの清掃

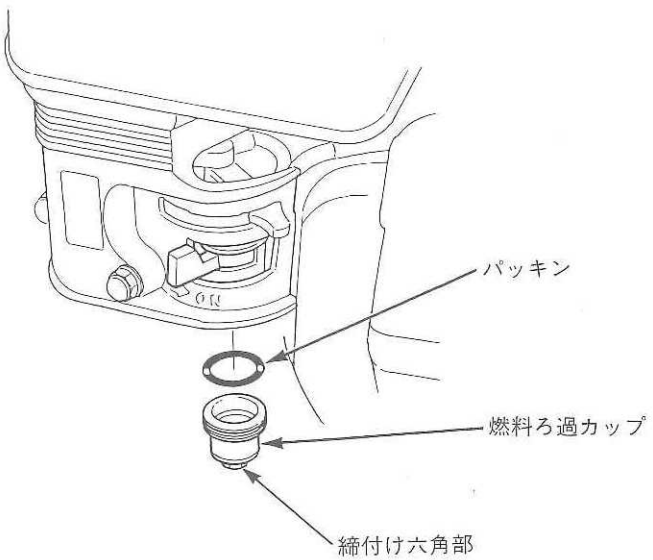
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
- 火気を近づけないでください。
- 換気の良い場所で行ってください。
- 燃料ろ過カップの取付け後、漏れないか点検してください。
- ガソリンが廻りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしてからエンジンを始動してください。

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。
《清掃時期》 6ヶ月毎または100時間運転毎

清掃

1. 燃料コック レバーを**"止"**にします。
2. 燃料ろ過カップの六角部をゆるめ取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、ガソリン漏れのないようパッキンを元どおりに取付け、締付け六角部を確実に締付けてください。
5. 燃料コック レバーを**"出"**にし燃料の漏れのないことを確認します。



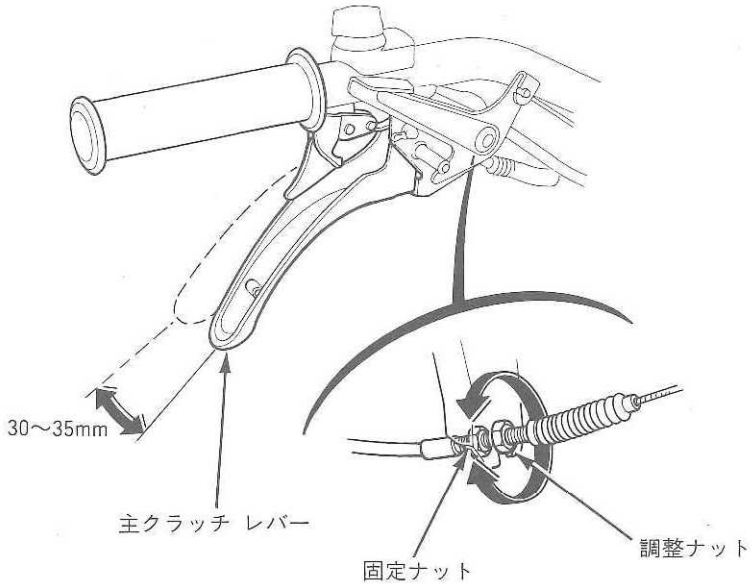
主クラッチ ケーブルの点検、調整

主クラッチ ケーブルの調整が完全でないとベルトがすべります。

《調整時期》 初回：1ヶ月目または20時間運転時、以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

点検、調整

1．主クラッチ レバーが“切”（固定レバーが解除されている状態）の位置で、レバー先端の遊びが30～35mmになっているか確認します。
調整は固定ナットをゆるめ、調整ナットで行います。



2．調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

エンジン回転調整ケーブルの点検、調整

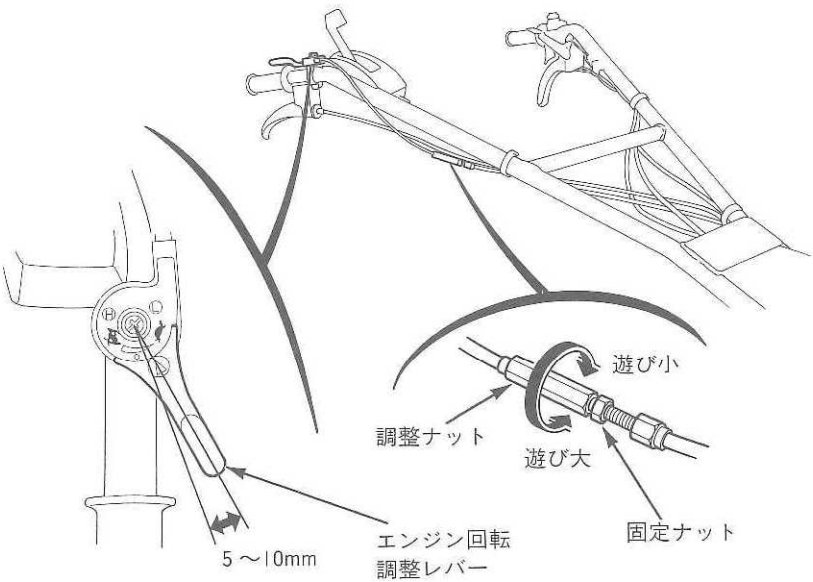
エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》　1年毎または300時間運転毎

1．エンジン回転調整レバーが"L"の位置の遊びが、先端で5～10mmになるように調整します。

2．調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットをまわして行なってください。

3．調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



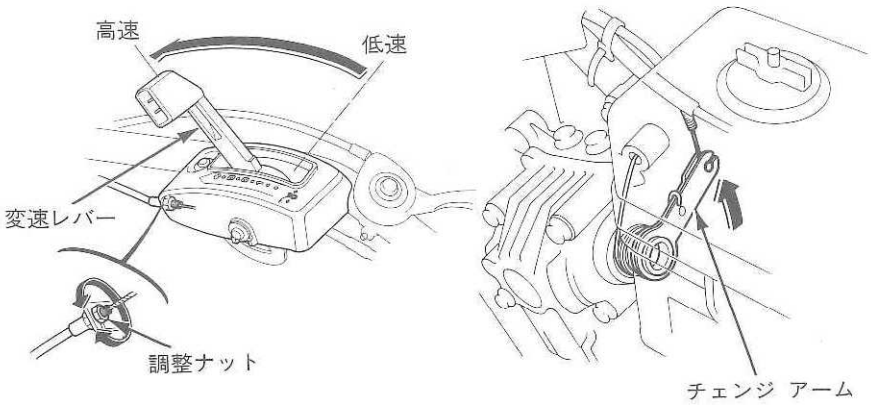
変速レバー ケーブルの点検、調整

変速レバー ケーブルの調整が正しくないと、最高車速がでにくくなります。

《点検、調整時期》 1年毎または300時間運転毎

点検、調整

1．ハンドルを正転の状態にします。
2．変速レバーを高速側いっぱいに倒します。
3．チェンジ アームを矢印の方向に引き上げ、遊びがないか確認します。
4．遊びがあるときは調整ナットをまわして遊びをなくします。
5．変速レバーを低速側にしてケーブルに遊びがあることを確認します。



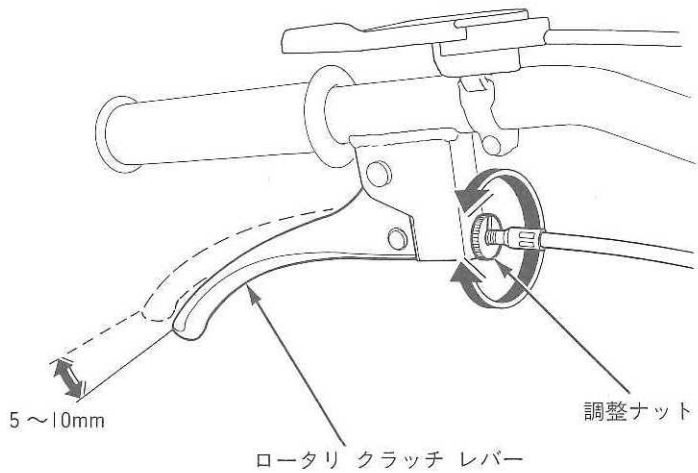
ロータリ クラッチ ケーブルの点検、調整

ロータリ クラッチ ケーブルが正しく調整されていないとクラッチの切れが悪くなります。

《点検、調整時期》 1年毎または300時間運転毎

点検、調整

1. ロータリ クラッチ レバーの遊びが、レバー先端で5～10mmになっているか点検します。
2. 調整は調整ナットをまわして行ってください。



ハンドル高さ調整レバー ケーブルの点検、調整

ハンドル高さ調整レバー ケーブルの調整が正しくないとハンドルの高さが変えにくくなります。

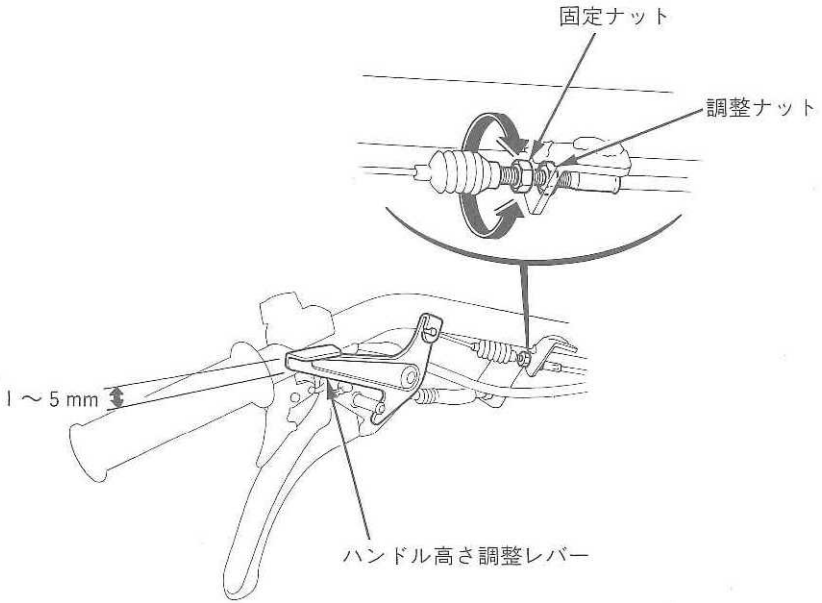
《点検、調整時期》 1年毎または300時間運転毎

点検、調整

1．ハンドル高さ調整レバーの遊びが、レバー先端で1～5mmになっているか点検します。

2．調整は固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行ってください。

3．調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



リモコン スタンド ノブ ケーブルの点検、調整〔KEタイプ〕

リモコン スタンド ノブ ケーブルの調整が正しくないと、スタンドの作動が悪くなります。

《点検、調整時期》1年毎または300時間運転毎

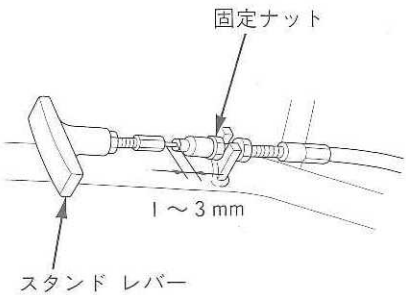
点検、調整

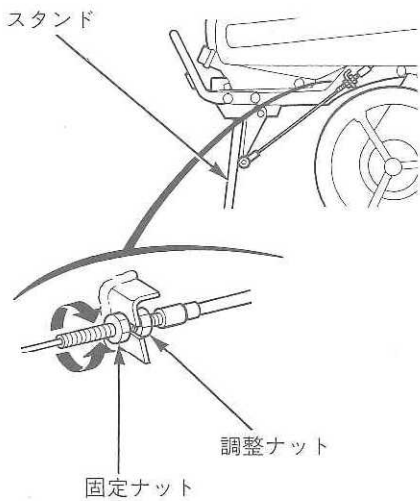
1．ハンドルを正転位置でスタンドを立てた状態にします。

2．リモコン スタンド ノブのブーツ先端とケーブル エンドの間が1～3 mmになっているか点検します。

3．調整スタンド側の固定ナットをゆるめ、調整ナットをまわして行ってください。

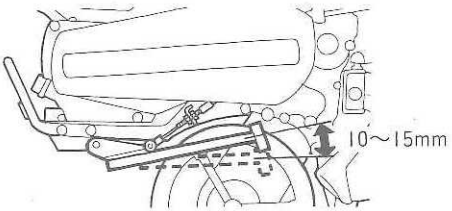
4．調整後固定ナットを確実に締付けてください。

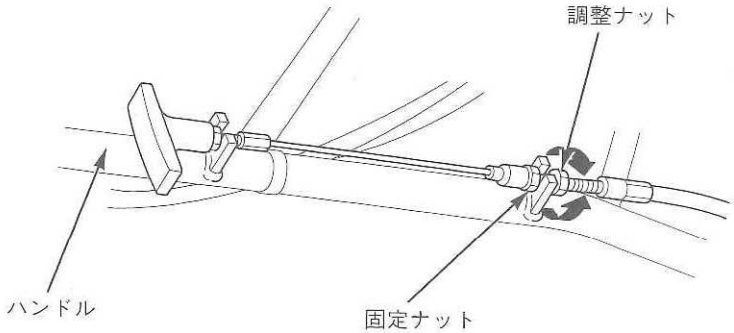




5．ハンドルを反転して、ワイヤに突張りが無いか確認します。ワイヤが突張っている場合は再度調整してください。

6．スタンドを収納した状態にします。
7．スタンドの遊びが、先端で10～15mmになっているか点検します。
8．調整ハンドル備の固定ナットをゆるめ調整ナットをまわしてください。
9．調整後、固定ナットを確実に締付けてください。





10. スタンドの出し入れをして作動を確認してください。

⚠注意

・スタンドを収納した状態はとても不安定です。スタンドの遊びを確認するときは、本機を他の人に支えてもらうか、固定してから行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

駆動ベルトの点検、調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

⚠注意

・調整後は、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落しておもわぬ事故が発生するおそれがあります。

《調整時期》　初回：1ヶ月目または20時間運転時、以後：6ヶ月毎または100時間運転毎

点検

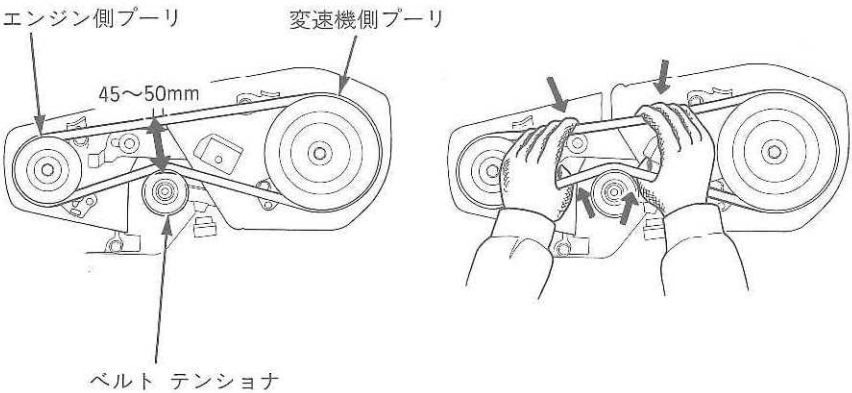
1．ベルト カバーを取外します。

2．ベルトのすき間及びストッパのすき間の調整はエンジンを**"停止"**させ点火プラグ キャップを外し、主クラッチ レバーを**"入"**にした状態で下図の様に上下ベルトを両手で5～6回つまんでベルトとプーリをなじませてから規定の寸法になるか、点検します。

・ベルト間隔：45—50mm

・指定ベルト：Vベルトバンド-W400 SB-37.5

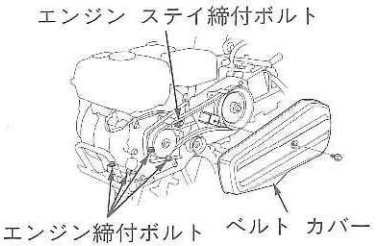
3．規定寸法外の場合は調整してください。



調整

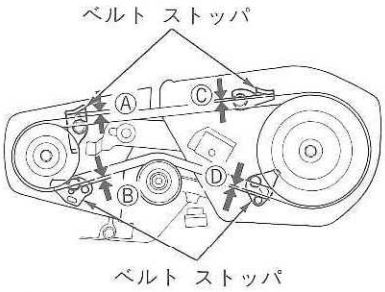
4．主クラッチ ケーブルを調整します。(調整方法は68頁参照)

5．調整はエンジン ステイ締付けボルト、エンジン締付けボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行います。
規定寸法よりせまい場合…エンジンを前に動かします。
規定寸法よりひろい場合…エンジンを後に動かします。



6．調整後、ボルトは確実に締付けてください。

7．主クラッチ レバーを握った状態、またはクラッチ固定レバー使用の状態(クラッチが"入"の状態)で、ベルトとベルト ストッパのすき間(4ヶ所)が図の寸法になるか点検します。



Ⓐ：2～3mm　Ⓑ：3～5mm　Ⓒ：2～3mm　Ⓓ：3～5mm

8．規定寸法外の場合は調整してください。

9．調整はストッパ締付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行います。

10．調整後、ボルトは確実に締付けてください。

11. ベルト カバーを取付けます。

⚠注意

・ベルト カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると手や衣服を巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

取扱いのポイント

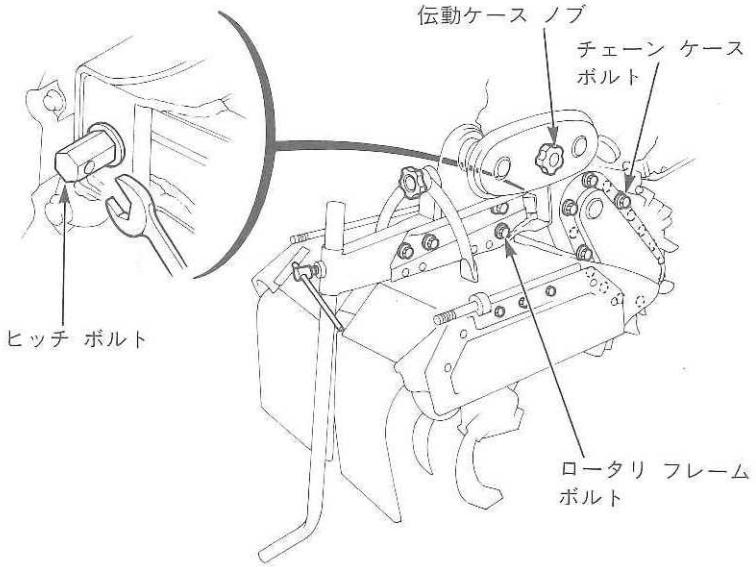
・調整時エンジン側プーリの面と変速機側プーリの面が一直線になるように合わせてください。合っていないとベルトが外れ及びベルトが早く傷みます。

・指定されたベルトで正しい調整を行なわないとベルトの傷みを早めたり、ベルトのすべりや外れ及び主クラッチの切れが悪くなる原因となります。

ロータリ各部のゆるみの点検

各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいたら確実に締付けてください。

《点検時期》 春、秋のシーズン前



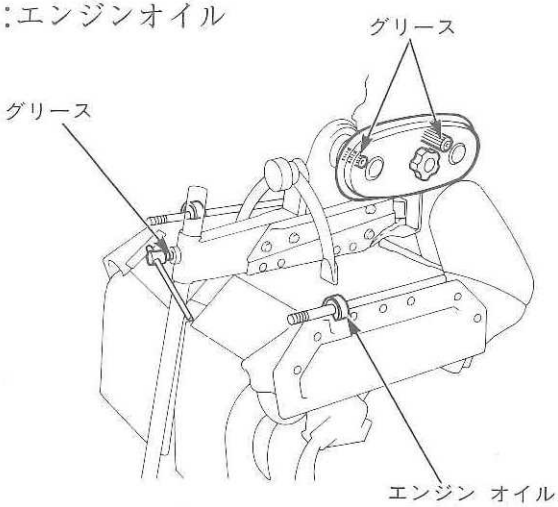
ロータリ各部の給油

指示箇所にグリースまたはオイルを塗布してください。

《給油時期》 春、秋のシーズン前

使用グリース:マルチパーパスグリース

使用オイル :エンジンオイル



長期間使用しない時の手入れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外します。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。

1．燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを抜きます。
《抜き方》
1）燃料コック レバーを“出”にします。
2）キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を１～２回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。
3）完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
4）燃料コック レバーを“止”にします。



2．エア クリーナを清掃します。(清掃方法は65頁参照)
3．始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
4．クラッチ レバーを“切”にします。

取扱いのポイント

本機を水平の状態にして平坦で安定した場所で保管してください。ハンドルを地面に付けた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなることがあります。

故　障　の　と　き　は

まずご自身で次ぎの点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店またはサービス店へお申しつけください。

始動しないときは次の点を確かめましょう。

1．始動方法は、取扱説明書通りですか？(46頁～50頁参照)
2．ガソリンはありますか？(28、29頁参照)
3．エンジン オイルは注入口、口元までありますか？(30頁参照)
4．点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？(66頁参照)
　・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

主クラッチが作動しない時は次の点を確めましょう。

5．主クラッチ ケーブルの調整方法が取扱説明書通りですか？(68頁参照)
6．駆動ベルトの調整方法が取扱説明書通りですか？(75頁～77頁参照)

～～～～～～～～～～少し時間をおいてもう一度確かめましょう～～～～～～～～～～

故障の修理

お買いあげ販売店へお申しつけください。

主 要 諸 元

名称		FR415
型式		ホンダFR415
区分		KE
機体寸法	全長	1,405mm
	全幅	640mm
	全高	955mm
全装備質量（重量）		50kg
エンジン	名称	GX120K1
	形式	空冷４サイクル１気筒25°傾斜ガソリン
	総排気量	118cm³
	連続定格出力/回転速度	2.1kW(2.9PS)/3,500rpm
	最大出力/回転速度（SAE J1349に準拠＊）	2.6kW(3.5PS)/3,600rpm
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
	燃料タンク容量	1.2ℓ（給油限界位置）
	エンジンオイル量	0.6ℓ
	点火方式	トランジスタ マグネト点火
	始動方式	リコイルスタータ
クラッチ方式		ベルトテンション
変速段数		無段変速（クリック付）
ハンドルスイング		正転（左右２段階16°、32°）逆転（左右16°）
ハンドル高さ調整		４段
(mm)		680、805、900、1045
安全鑑定適合番号		16095

・全高はハンドル高さ調整レバーを最下段から２段目にセットしたときの数値です。

注意:諸元は変更することがあります。

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。

完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

名称		FR615	
型式		ホンダFR615	
区分		KE	R
機体寸法	全長	1,405mm	
	全幅	640mm	
	全高	955mm	950mm
全装備質量（重量）		53kg	57kg
エンジン	名称	GX160K1	
	形式	空冷４サイクル１気筒25°傾斜ガソリン	
	総排気量	163cm³	
	連続定格出力/回転速度	2.9kW(3.9PS)/3,400rpm	
	最大出力/回転速度（SAE J1349に準拠＊）	3.6kW(4.9PS)/3,600rpm	
	使用燃料	無鉛レギュラーガソリン	
	燃料タンク容量	2.4ℓ（給油限界位置）	
	エンジンオイル量	0.6ℓ	
	点火方式	トランジスタマグネト点火	
	始動方式	リコイルスタータ	
クラッチ方式		ベルトテンション	
変速段数		無段変速（クリック付）	
ハンドルスイング		正転（左右２段階16°、32°）逆転（左右16°）	
ハンドル高さ調整		４段	
(mm)		680、805、900、1045	675、800、895、1040
安全鑑定適合番号		16096	

・全高はハンドル高さ調整レバーを最下段から２段目にセットしたときの数値です。

注意:諸元は変更することがあります。

＊ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（エンジン最大出力）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。

完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

HONDA

The Power of Dreams

30773605
00X30-773-6051

R70
古紙配合率70%〈表紙40%〉の再生紙を使用しています。

Ⓢ Ⓝ 100.2007.10
©2001 本田技研工業株式会社